完全マスター

英文法

米原幸大
Kodai Yonehara

語研

完全マスター

英文法

米原幸大
Kodai Yonehara

語研

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

To

Dr. Eleanor Harz Jorden

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

はじめに

私がジョーデン博士の日本語のテキストに初めて出会ったのは，1991 年夏のコーネル大学での日本語教授法のワークショップに参加したときでした。私はそのテキストの内容を細かく知れば知るほど，その素晴らしさに驚嘆を禁じ得ず，翌年に著者本人であるジョーデン博士にお会いするため，博士がオーガナイズしているブリンマー大学での 2 か月間の日本語教授法のワークショップに参加することにしました。

私は今でもご高齢のジョーデン博士が車イスで教壇に登壇され，初めてお会いしたときの情景をハッキリ思い出すことができます。博士の講義もやはり博士の日本語のテキストのように，一切の妥協のない言語教育への至誠の態度で貫かれていました。博士の日本語教育の方向性は一貫しています。それは日本語学習者に，いかに効率よくより大きな付加価値をつけるのか，つまり，いかに日本語学習者に，より自然な日本語を効率よく習得させるのかという点にフォーカスされています。

その後，私は博士のテキストで実際にアメリカでの日本語教育に携わることになりますが，それは正に，そのテキストが自然な日本語の 4 スキルの習得に関して最高度に完成されたものであると実感させられる日々となりました。

日本の英語教育界にもジョーデン博士のテキストのような英語のテキストがあれば，と私が考えるようになったのは自然の流れでした。周知のように，大変な英語ブームの中にあって，日本語母語者の英語力は世界ランキングで最低レベルのままです。特にアクティブスキルであるスピーキングやライティングは非常に問題があります。そして 1999 年にこの英語のテキストを書き始めたわけですが，正直こんなに時間のかかる大変なものだとは思ってもいませんでした。本来怠け者である私をここまで引っ張ってきたのは，正にジョーデンスピリットだというほかないと私は思っています。

最後に，この場を借りてこのテキスト製作に直接・間接に貢献してくださった方々や参考書に感謝を述べたいと思います。その中で特に，コーネル大学のロバート・スークル先生。先生は私がジョーデン博士を知るきっかけとなった博士のお弟子さんです。青山学院大学のトレント信子先生。この本の内容のチェックや多くの有益な助言をしてくださいました。*The Grammar Book* の Marianne Celce-Murcia & Diane Larsen-Freeman の両著者。英語の「習得のためのグラマー」に関して，多くの新しい視点を教えてもらいました。そして，（株）語研編集部の島袋一郎氏。長期間に渡り大変な量のテキストの細かいチェック，非常に有益な多くのサジェスチョンをしてくださいました。心より感謝いたします。

2009 年 4 月

米原幸大

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

目 次

はじめに iii
アイビーリーグ・イングリッシュによる
習得メソッドについて x
習得プラクティスの方法 xiv

第 1 章　発音とイントネーション

Part 1　発音

1. 英語の母音 3
2. 英語の子音 6

Part 2　アクセントとイントネーション

3. アクセント 13
4. リズム 14
5. トーンのパターン 15
6. センテンスの強勢のパターン 16

第 2 章　文の要素

7. 文 20
8. 名詞を中心とした主語の構造 21
9. 動詞を中心とした述語の構造 23
10. その他の文の要素 31
11. 品詞のまとめ 36
12. 機能上の文の種類 36
13. 直説法と仮定法 37

第 3 章　名詞 [名詞①]

Part 1　冠詞と名詞の関係

14. 5 種類の冠詞 42
15. 冠詞の種類の選択 43

Part 2　名詞の種類

16. 普通名詞とその総称用法 48
17. 普通名詞の非総称用法 50
18. 普通名詞から他の種類の名詞への
転用 52
19. 集合名詞 53
20. 物質名詞 56
21. 抽象名詞 58
22. 固有名詞 64

Part 3　名詞の数

23. 単・複同形の名詞 68
24. 常に複数形の名詞 69
25. その他の複数形名詞の注意 70

Part 4　名詞の格，その他

26. 名詞の所有格 74
27. 名詞の目的格 77
28. 名詞の同格 78
29. 名詞の性 79
30. 名詞の合成語のパターン 82

応用練習 83

第 4 章　代名詞 [名詞②]

Part 1　人称代名詞

31. 人称代名詞の一般論 94
32. we，you，they が‘人々一般’
を指す用法 97
33. it の用法 99
34. 所有代名詞 103
35. 再帰代名詞 104

Part 2　指示代名詞

36. this，that，these，those 107
37. so の代名詞的用法 108
38. same 110

Part 3　不定代名詞

39. one 112

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

40. none, all 113
41. each, every 115
42. either, neither 117
43. other, another 118
44. some/any/every/no + body/one/thing 120

応用練習 122

第5章　形容詞［形容詞①］

45. 形容詞の概略 128

Part 1　形容詞の限定用法と叙述用法

46. 限定用法の概観 130
47. 形容詞と名詞の順 131
48. 叙述用法で S+V+C のパターン 134
49. 叙述用法で S+V+O+C のパターン 135
50. 限定用法か叙述用法しかない形容詞 136
51. 限定用法と叙述用法で意味の異なる形容詞 138

Part 2　形容詞のその他の注意点

52. ［主語 + be 動詞 + 形容詞 + 不定詞］ 139
53. 不定詞，動名詞の両方をとれる形容詞 140
54. 形容詞の名詞的用法 141
55. 形容詞の副詞的用法 142
56. 感情を表す形容詞 143
57. 他動詞からの分詞において，動詞か形容詞かの区別のしかた 148
58. 自動詞からの形容詞（限定用法） 149
59. old ↔ young などの対極同士にある形容詞 150
60. 形容詞のその他の注意 151

応用練習 155

第6章　限定詞［形容詞②］

61. 限定詞の概観 164

Part 1　3種類の限定詞

62. 前限定詞 165
63. 核限定詞 166
64. 後限定詞 167

Part 2　個々の数量詞

65. many と much 169
66. few と little 171
67. some と any 172
68. 数詞の注意点 175
69. 数量詞に関してのその他 178

Part 3　冠詞

70. 不定冠詞 a の注意すべき用法 181
71. 定冠詞 the の注意すべき用法 183
72. 冠詞をとらない場合 186
73. 冠詞がオプショナルのケース 191
74. 冠詞の省略またはオプショナルのその他のケース 193

応用練習 194

第7章　副詞

Part 1　副詞の分類

75. 副詞の役割 202
76. 他の品詞から転用・派生した副詞の語形 205

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

77. 副詞の位置の目安 208
78. 副詞の意味上からの分類 214

Part 2　主要な副詞，その他

79. ago と before 217
80. since，already，yet，still　218
81. very，much..... 220
82. well..... 222
83. quite，fairly，rather 223
84. ever..... 224
85. far 225
86. right..... 226
87. enough..... 226
88. 副詞句の有用表現・慣用表現 227

応用練習 228

第 8 章　動詞

Part 1　動詞の 5 種類の文型

89. 動詞の文型の概観と特殊型.. 238
90. 第 1 文型：S+V（完全自動詞）　242
91. 第 2 文型：S+V+C（不完全自動詞） 243
92. 第 3 文型：S+V+O（完全他動詞） 248
93. 第 4 文型：S+V+IO+DO（完全他動詞）..... 253
94. 第 5 文型：S+V+O+C（不完全他動詞）..... 257
95. have，make，get，let と知覚動詞 258
96. 2 次的な述語 261

Part 2　主要動詞

97. 基本動詞 be，have，do の注意点 263
98. 主要動詞を使ったイディオムと無生物主語をとる動詞..... 266

Part 3　群動詞

99. 群動詞とは..... 274
100. 自動詞と他動詞の群動詞 275
101. 群動詞＋前置詞..... 276
102. 群動詞と直接目的語の位置　276
103. ［動詞＋副詞］vs.［動詞＋前置詞］ 277
104. 群動詞の種類 278

応用練習 281

第 9 章　法助動詞と法助動詞句
［助動詞①］

105. 法助動詞（句）の概観..... 296

Part 1　個々の法助動詞について

106. can 297
107. could 299
108. may..... 301
109. might..... 302
110. must 303
111. will..... 305
112. would..... 308
113. shall..... 310
114. should..... 311
115. その他の法助動詞 313

Part 2　法助動詞と法助動詞句の比較

116. can と be able to（could と was/were able to も含む）..... 315
117. must と have to..... 317
118. will と be going to 319
119. 過去の習慣を表す would，used to 320

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

Part 3　法助動詞（句）同士の相互関係
120. 推論－肯定文 322
121. 推論－否定文 323
122. 推論－過去の肯定文 323
123. 推論－過去の否定文 324
124. 予想－肯定文 325
125. 予想－否定文 325
126. 依頼と許可 325
127. アドバイス 327

応用練習 328

第 10 章　時制［助動詞②］
Part 1　時制
128. 現在時制 338
129. 過去時制 345
130. 未来時制 349

Part 2　完了形と進行形
131. 動詞の 4 つのタイプ 351
132. 完了形 352
133. 進行形 355
134. 現在完了進行形 359

Part 3　それぞれの時制の比較
135. 単純現在と現在進行形の違い 360
136. 現在完了と現在完了進行形の違い 360
137. 単純過去と現在完了の違い　361
138. 単純過去と過去進行形の違い 363
139. 単純過去と過去完了の違い　363
140. 単純未来と未来完了形の違い 364

応用練習 366

第 11 章　受動態［助動詞③］
141. S+V+O（第 3 文型）からの受身形 380
142. S+V+IO+DO（第 4 文型）からの受身形 382
143. S+V+O+C（第 5 文型）からの受身形 383
144. 準動詞の受動態 386
145. 感情を表す動詞からの形容詞 387
146. 状態変化動詞（中間の態）..... 389
147. get ＋過去分詞 392
148. 受身形のその他の注意 394

応用練習 397

第 12 章　命令形［助動詞④］
149. 命令形の一般的パターン 404
150. let を使った文 407
151. 命令文の社会的機能 409

応用練習 410

第 13 章　否定
152. 単語レベルの否定 418
153. 句レベルの否定 422
154. センテンスレベルの否定 422
155. 全否定，部分否定，準否定など 427

応用練習 430

第 14 章　前置詞
156. 前置詞の概観 434

Part 1　各前置詞の用法
157. of 438
158. in 442

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

159. to 447
160. for 449
161. with 453
162. on 456
163. at 459
164. by 462
165. from 463
166. その他の前置詞 466
167. 前置詞的に用いられる句 478

Part 2　前置詞同士の比較
168. ２つの前置詞の相関関係 480
169. とる前置詞によって意味が微妙に異なる慣用句 483

Part 3　前置詞の省略
170. 前置詞がオプショナルのケース 484
171. 前置詞が必ず省略されるケース 486

応用練習 488

第 15 章　準動詞

Part 1　分詞
172. 分詞の形容詞用法 504
173. 分詞の名詞的用法 510
174. 分詞の動詞的用法 510
175. 分詞の副詞的用法－分詞構文 511

Part 2　不定詞
176. 不定詞の名詞的用法 515
177. 不定詞の形容詞的用法 520
178. 不定詞の副詞的用法 521
179. ［be + to 不定詞］と［seem + to 不定詞］ 522
180. for ~ to 不定詞のパターン ... 524
181. 不定詞の完了形 526
182. 代不定詞と分割不定詞 527
183. S+V+O+ 原形不定詞 528
184. to 不定詞と原形不定詞が可能な場合 530
185. ［目的語 +（原形）不定詞］vs.［目的語 + 現在分詞］ 532
186. 不定詞を使った慣用表現 533

Part 3　動名詞
187. 動名詞の名詞的性質 534
188. 動名詞の動詞的性質 536
189. 動名詞の意味上の主語 537
190. 動名詞と現在分詞との区別　538
191. 動名詞と不定詞で，どちらを使うのかの選択のしかた 540

応用練習 544

第 16 章　比較
192. 原級（as ~ as …） 556
193. 比較級 561
194. 最上級 567
195. 省略パターンのまとめ 572

応用練習 575

第 17 章　疑問文

Part 1　yes/no 疑問文（一般疑問文）
196. 肯定疑問文 580
197. 否定疑問文 583
198. 付加疑問文 583
199. その他の yes/no 疑問文 586
200. yes/no 疑問文の社会的機能　588

Part 2　Wh- 疑問文（特殊疑問文）
201. 疑問代名詞 589

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

202. 疑問形容詞 592
203. 疑問副詞 593
204. 疑問詞のその他の注意点 595
205. 疑問詞を使った慣用表現・有用表現 600
206. 疑問詞のある疑問文の社会的機能 602

応用練習 606

第18章　等位接続詞 [接続詞①]

207. and 620
208. or と nor 625
209. but 628
210. for 630
211. その他の等位接続詞（接続副詞） 631

応用練習 635

第19章　従位接続詞 [接続詞②]

212. 従位接続詞概観 642

Part 1　名詞節を導く従位接続詞

213. that 644
214. if と whether 655
215. 間接疑問文に使われる疑問詞 656

Part 2　形容詞節（関係詞節）を導く従位接続詞

216. 形容詞節の概観 658
217. 関係詞節の限定用法と非限定用法 662
218. 関係代名詞 667
219. who 667
220. which 669
221. that 671
222. 関係代名詞のオプショナルな省略 672
223. 複合関係代名詞 674
224. その他の関係代名詞 676
225. 関係形容詞（what, whose, which など） 677
226. 関係副詞（where, when, why, how） 679

Part 3　副詞節を導く従位接続詞

227. 副詞節の概観 683
228. 時（when, after, before, as など） 683
229. 目的（so that, in order that） ... 688
230. 結果（so ~ that, such ~ that） ... 688
231. 理由・原因（because, as, since など） 689
232. 譲歩（although と though, even if と even though, while など） 692
233. 場所（where） 695
234. 様態（as, as if/though など） ... 696
235. 条件文の概略 696
236. 直説法の動詞のある条件文　697
237. 仮定法の動詞のある条件文　699
238. 条件文の直説法 vs. 仮定法　701
239. if 節のない文でも‘条件’の意味が含まれているケース 703
240. if 節に相当する部分が意味的に含まれているケース 705
241. 条件文や仮定法を含む慣用表現とその他の注意 706
242. 条件文の社会的機能 709
243. 従位節である副詞節内の省略のパターン 709

応用練習 714

索引 730

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

アイビーリーグ・イングリッシュによる習得メソッドについて

1. アイビーリーグ・イングリッシュとは

アメリカの一流大学群（ハーバード大学，エール大学，コーネル大学，ダートマス大学など多くの大学）では，最難外国語（難度スケール４レベル中の４で，例えば英語母語者にとっての日本語など）の習得教育に大きな成果を上げています。英語は，私たち日本語母語者にとって最難外国語の一つで，私自身は日本の英語教育は生徒として経験し，米国の日本語教育は教師として関わりました。そして，その両者の習得の成果に大きな違いを知らされることになったのです。具体的に言えば，アメリカのそれらの大学では，わずか３年間ほどの履修で流暢な日本語をあやつれる学生が少なからず出てくる一方，日本の英語教育では，大学までの８年間を主要な教科として勉強しても，メジャーな大学の学生でさえ英語でのクラスディスカッションは全く不可能で，片言英語（ETS のオーラル運用能力スケールの５レベル中の何とゼロ）の範囲から逃れられていないのが厳しい現実です。

アメリカのそれらの大学で使われている（少なからず高校でも使われている）日本語の教材は，英語母語者が本格的で自然な日本語の習得を試みる場合に出てくる問題点（文法上の問題点と自然な日本語を表現する上での問題点）にしっかりフォーカスされています。同様に本書も，日本語を母語とする学習者が英語の習得を試みる場合に障害となってくるポイント（難しいポイントはほぼ全て日本語と英語とのズレの部分なのです）にフォーカスし，それらの問題点を効率よく克服しつつ，自然で本格的な英語の習得ができるようにデザインされています。

2. アイビーリーグ・イングリッシュの特徴

A）英語習得前提の詳しい文法説明

本書の特徴の第１点目は，日本語と英語は非常に言語的距離があり，英語の習得はやさしくはありませんが，それ相応のしっかりしたグラマーの説明（文型パターンのみならず，音声ルール，英語表現を「いつ」「どこで」「どう」適切に使うのかの言語社会上のルールも含む）があることです。グラマーのためのグラマーの説明ではなく，英語習得が目的であることを前提とし，効率的な習得を可

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

能にするためのプラクティカルな説明です。

多くの英語学習者はグラマーを‘やさしく’説明している英語教材を使う傾向にありますが，簡単な説明では高等学校の数学を加減乗除だけで理解を試みるようなもので，学習者は‘わかったようでわからない’霧の中にいるような状況に置かれ，かえってわからなくなってしまうものなのです。

アメリカのそれらの大学や高校で使われている日本語の教材の文法の説明は，学習者により効率的に日本語を習得させることを目的としています。つまり，ターゲット言語習得に直接結びつく Pedagogical Grammar（教育文法）が使われていますが，その文法の説明は，日本の英語教育界で広く使われていて，英語習得には必ずしも直結していない Descriptive Grammar（記述文法）の本の文法の説明とはかなり質が異なります。本書は，米国で使われているその日本語の教材を踏襲して，英語をより効率的に習得させることを目的とした Pedagogical Grammar（教育文法）が使われています。

B）英語表現が豊富にバランスよく紹介されている

第２点目に，本書には本格的な日常会話ができる英語表現（日常生活の中で使用頻度の高い語彙を使用し，口語のみならず文語も含めた）が豊富に収録されています。これらの例文を通して，日常のコミュニケーションに不可欠な文法・語法を理解し，英語の語感を養うことができます。

C）本書一冊で英語習得の全てをカバーしている

第３点目に，センテンスパターン（文型）を理解し，練習することが重要ですが，本書ではこの２つの繰り返しができるようにデザインされています。最難外国語である英語のスキルの習得の極意は，ピアノやスポーツのスキルの習得同様，「繰り返し」です。前後左右の関連もない内容の少ないいろいろな教材を取り替えつつの勉強法では，なかなか「習得型」にはなり得ず，「紹介型」となりやすいのです。例えば，発音・イントネーション，単語，熟語，英会話表現，文型文法などは，それぞれの独立本を使って「発音のための発音」，「単語のための単語」，「英会話のための英会話」，「文法のための文法」などのように行なわないで，その大きなシステムの中で扱い，他のアスペクトと連動させて習得を目指していくのが実際の発音習得，英単語習得，英会話習得，英文法習得などには効率的・合理的です。その英語全体のシステムを本書は網羅しています。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

D）アイビーリーグ・イングリッシュの勉強法はスピーキングが中心

(1) アイビーリーグ・イングリッシュではスピーキング中心に勉強を行います。そして，この方法はスピーキングのみならず他の全ての言語スキルもスムーズに向上させることができるのです。

(2) 本書での「話すこと中心の練習」では，自ら声に出して練習しますのでリスニングの練習にもなります。スピーキングの習得作業による，発音・イントネーションの練習を含めた，バラエティーに富む英語表現，文法パターンの習得練習を行わないで，受身的スキルであるリスニングの練習をするだけであれば，リスニングそのものにもすぐに限界がくるものです。微妙な発音・イントネーション，さまざまな英語表現・センテンスパターンに対して細かく意識がついていけないからです。自らが言える英語のリスニングは当然難しくはありません。

(3) しかも，スピーキングの習得作業はバラエティーある英語表現やセンテンスパターンを脳にインテイクしていくことですが，それはライティングの習得作業と全く同じなのです（英語のオーラルにて表現や説明がスムーズにできれば，その英語はそれ程困難なく書けるものです）。つまり，ライティングスキルの習得は，スピーキングスキルの習得レベルとパラレルに伸びていきます。

(4) さらに，‘音’によって慣れた英語は，リーディングのときにそのまま句や文として脳に飛び込んできますので，リーディング作業のスピードが格段に速くなります。逆に，オーラルスキルの前提のない英語のリーディングは，「暗号解き」になりやすく，英文解釈に時間がかかってしまう傾向にあります。

3.「英語は英語で」の大きな落とし穴

日本では今，英語圏への留学・出向，学校英語プログラムや企業英語プログラムへのネイティブの導入，そして膨大な数の英会話スクールの存在といったように，「英語は英語で」の勉強法が大流行です。しかし，「英語は英語で」ですので，勉強の焦点は英語と英語の関係になりますが，日本語と英語のズレが英語の習得を難しい，わかりにくいものにしているのです。英語で書かれた「英語は英語で」のテキストは最易外国語型で，日本語母語者の学習者にとっての重要ポイントがゴッソリ抜け落ちています。「英語をどう使っていいのかわからない」でいる場合，日本語母語者は必然的に自らの膨大な言語経験である「日本語の常識」を無意識に当てはめてしまいます。ですので，「英語は英語で」の学習方法では，一

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

般常識とは逆に日本語的な英語から逃れ難い傾向があるのです。このことは，英語圏にいる日本人在住者の英語，日本在住の英語のネイティブの日本語を聞けば明らかです。彼らは，「究極の外国語習得環境」に住んでいるように感じられますが，実際にはあまり習得が起こらず非常に苦労しておられる方が圧倒的です。

4. 本書の習得対象言語は**アメリカ英語**

本書の習得対象英語は，「アメリカ英語」です。イギリス英語でもインド英語でもなく，本書がアメリカ英語を選んでいる理由は，好むと好まざるとに関わらず，英語の世界の中でアメリカ英語が圧倒的な地位を占めているからです。ちょうど日本語の世界で，東京弁が圧倒的な地位を収めてしまっているように。習得言語対象をハッキリさせている理由は，そうしないと何でもありの，つまり必然的に日本語の影響の濃い日本英語になりやすいからです。現実には，日本英語は日本人以外には極めて通じ難い英語です。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

習得プラクティスの方法

本書は，英語の初級・中級・上級全てのレベルの学習者が使うことができるようにデザインされています（クラスセッティングにて本書を英語のテキストとして使用する場合の英語教授法は，米原幸大著『米国の日本語教育に学ぶ新英語教育』〈大学教育出版〉参照）。各章の中に練習して覚えていただきたい英語の語，句，センテンスが示してあり，各章末の‘応用練習’でさらに英語が紹介されています。これらの英語で，比較的難しいもの，使用頻度の少ないものは色の付いた文字ではなく黒字で示されています。

① **初級レベルの学習者**による練習では，各章の黒字の英語の語，句，センテンスと章末の応用練習の中の全ての語，句，センテンスは除きます。
② **中級レベルの学習者**は，各章の語，句，センテンスと章末の応用練習の両方はカバーしますが，それぞれの黒字のセンテンスは除きます。
③ **上級レベルの学習者**は，本書の全ての英語の語，句，センテンスをカバーすることになっています。

ですので，例えば中級と上級を経験する学習者の場合，まず中級で各章とその応用練習の中の黒字の英語を除いた全ての英語の練習を行います。それが終わり上級に進めば，中級で行なってきたものを復習することと同時に，新たに黒字の英語の習得練習も行うことになります。

〈パターン①〉

1. まずグラマーの項目を読みます。多くのグラマーの項目はお互い関連し合っていますので，後々の関連事項のより深い理解のためにもなるべく細かい点に注意を払って読む必要があります。例文にもなるべく細かく注意を払いましょう。

2. ‘習得プラクティス’（日本語の語・句・文に英語訳の付いているもの）で，日本語だけ見て英語をクリエイト（英作）して口に出してみます。もしその英語表現が脳にあれば言えるはずです。言えない表現は，スムーズに言えるようになるまで練習します。

3. 最後の仕上げとして，ネイティブのしゃべる英語の後に続いて（本書の英文を見ないで）その英語をリピートし，自然な発音・イントネーションやスピードになるまで練習します。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

〈パターン②〉

1. ‘習得プラクティス’で，日本語だけを見て英語をクリエイト（英作）して口に出してみます。そして言えない表現を繰り返し練習します。

2. 文法パターンのわからない部分についてのみ，該当部分のグラマーの項目を読んで理解します。

3. 最後の仕上げとして，ネイティブのしゃべる英語の後に続いて（本書の英文を見ないで）その英語をリピートし，自然な発音・イントネーションやスピードになるまで練習します。

【本書の音声について】

著者ホームページにて例文の音声データを無料で配信中です（2010 年 11 月 25 日現在）。

〈著者ホームページ〉http://www.ivyleague-english.com/

（※音声データの作成と提供は著者が行っております。弊社ではお問い合わせにはお答えできませんので，予めご了承ください）

この作業は，日本文からの英語の直訳ではなく，‘言いたい状況’が日本語で示してあって，その‘言いたい状況’（当然英語から見た日本語は，英語からの直訳ではなく意訳です）を英語で言ってみるという作業です（よって，モデルの英文以外の英語表現方法がある可能性はもちろんあります）。

もう１点述べると，本書での英語をクリエイト（英作）する練習は‘1 日の生活で頭に浮かんだことを英語でしゃべる’という英語の達人と言われる人たちがよく使う練習方法に似ています。‘頭に浮かんだことを英語でしゃべる’方法も基本はアクティブに英語をクリエイトする練習です。ただし，この方法は作った英語表現が正しく自然であるのかどうかがわからず，間違いは間違いのままになるという大きな欠点があります。そして，語学習得で重要な定期的なフィードバックができないのも大きな欠点です。本書でのメソッドは，グラマーベースの間違いや弱点はグラマーの説明を読んでより深く理解し，その上での練習がいくらでもでき，しかも後日それをまたレビューできるので，効果的に弱点の克服ができるようになっています。

英語をクリエイト（英作）する練習の目的は，**不足のグラマーパターン，英語表現をどんどん炙り出して理解・練習・暗記で効率的に英語を脳に蓄えることにあります**。英語力は，強いインプットとして脳の中にあるセンテンスパターン，自然な英語表現の量に比例します。インプットが弱い英語表現は，現地で英会話の場数を踏んでもなかなか口から出てこないものなのです。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

主な記号・その他の意味

cf. 「比較・参考」（参考事項を示す）

（　）「オプショナル」（カッコ内の語を付けても付けなくてもよいケース）

△ 「不自然な文」
（一般には不自然に思われているが，全く使われないわけではないケース）

× 「間違いの文」

A ↔ B 「A と B は反意語同士」

A ≒ B 「A と B はほとんど同じ意味を表す」

A / B 「A または B」
（A も B も相互に入れ替え可能で文が成り立つケース。必ずしも A と B が同じ意味を表すわけではない）

下線のある語（句）「注意すべきポイント」

（A）3 「A の品詞の語（句）の数は上限３つまで」

（A）n 「A の品詞の語（句）の数は上限は原則なし」

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

第1章

発音とイントネーション

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

第1章 発音とイントネーション

言葉は‘音’が主人公であり，‘文字’はそれを目に見えるようにしたものにすぎない。言葉とは‘音’なのである。したがって自然な発音・イントネーションに，より細かい注意を払うことの重要性は，いくら強調しても強調し過ぎることはない。

例えば一番厄介な英単語は，日本語になってしまっている英語からの外来語である。‘変な英語’の発音とイントネーションの癖が付いているため，その変な癖を直すのは並大抵のことではないからである（もう一点英語からの外来語について言うと，英語と日本語になった外来語とは意味が多かれ少なかれずれることがあるので，注意が必要である）。

このことは，正しい発音とイントネーションの習得は，初級であればあるほど重要であることを示している。面倒くさがらずに，自然な発音の習得を原則としていただけたらと思う。その作業が習慣となれば，それほど面倒なことではなくなるものである。

例えば vanilla は，英語（この本の最初のところで述べているように，本書の英語は米語）では [vəníləˑ] と発音され，発音・イントネーションのパターンは日本語の［バニラ］と非常に異なる。非常に異なるがゆえに，日本語のフィルターを通した英語になりやすくなり，しゃべっていることが文法的には正しくてもなかなか通じないということになる。そして，発音が悪いとどうしても細かい発音に意識がついていけず，リスニングに限界がきやすい。つまり，よい発音はスピーキングに関わるだけではなく，リスニングにも影響するのである。

この問題への効果的な克服の方法は，英語の発音・イントネーションのパターンをよく理解し，実際に聞いたり口に出したりの練習を何度も繰り返すことである（一般に，英語は日本語と比べ口や舌の動きが活発であり，女性の方が男性よりその傾向が強い）。つまり，発音してくれる電子辞典やオーディオ類で耳で聞くことは，言葉は音なのでもちろん重要であるが，英語の発音を目で発音記号を見ても確かめることができるようにするのも大事である。必ずしも耳が正しく聞いてくれるわけではないからである。それに，音に出して発音してくれる電子辞典やオーディオ類より，発音記号の方が英語音のパターンが理解しやすい場合が少なからずあるのである。

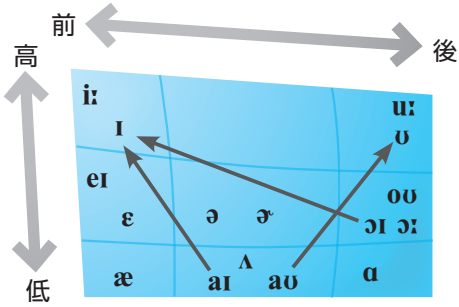
最後に，単語が会話のセンテンスの中で使われる場合，母音が弱音になったり消えたり，子音が変化したり消えることさえ少なくないことを強調しておきたい。強音ばかり使うとネイティブからは大げさに聞こえるケースもあることを知っておく必要がある。強音と弱音の発音方法があるのは，一般に短い単語で特に冠詞（a/an, the），人称代名詞（it, me など），不定代名詞（one, other など），関係詞（that, when など），助動詞（will, can など），前置詞（of, in など），接続詞（and, as など）である。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

Part 1　発音

1. 英語の母音

前後・高低は舌の位置を示す。



母音の発音位置（左を向いた人の口の中）

母音は単母音と複母音に分けることができる。複母音で舌の大きな移動のあるものは→で示してある（母音の解釈は子音より難しく，専門家の意見の差も大きい）。

（1）[iː] : fee,　she,　believe,　heat

日本語の［イー］のような音で，唇はもっと横に引く。[ɪ] より舌先は高い。

「その料金はかなり高いと思います」 I believe the fee is quite high.

注 1

同じ [iː] 音であっても，語により多少の違いがある。

speed [spíːd]　speedy [spíːdi]　speedily [spíːdɪli]

より長い ←→ より短い

（2）[ɪ] : fit,　income,　hit,　kid

日本語の［イ］にわずかに［エ］がある感じ。

「その子はボールを強打しました」 The kid hit the ball very hard.

注 2

y や y からの派生した i がある語尾が -ies や -ied の母音は [iː] の音に近いが，[iː] ほど長くはなく [ɪ] ほど短くないので，[i] を使う。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

happy [hǽpi], cities [síṭiz], carried [kǽrid]

「あなたはアメリカに住んで幸せですか」 Are you happy living in the US?

(3) [eɪ] : fate, they, great, clay
強い［エ］から［イ］の方に移動する。

「彼らは子供たち，ティーンを教えるのが上手です」
They are great at teaching children and teens.

(4) [ɛ] : let, lead, air, says
日本語の［エ］とほとんど同じであるが，舌がわずかに低く口はやや広めに開ける。

「窓を開けて新鮮な空気を入れよう」 Open the windows and let some fresh air in.

(5) [æ] : camp, bath, fan, cap
［ア］と［エ］の中間音である。喉を締めつけるような感じ。

「サリーは，いとこのスーを訪問するために飛行機で行った」
Sally traveled on an airplane to visit her cousin Sue.
《travel は「旅行する」以外に「行く」「通う」の意味でも使われる》

注 3

単語の第一音節の母音のスペルが単独の a の場合，つまり複母音でないケースでは，だいたいこの母音となる（スペル a の後ろの子音が [r] の発音の場合は例外）。日本語母語者は，この音をだいたい [ɑ] と発音してしまいがちなので注意が必要である（他の例：natural, class, mad, bad, handle, Sam, brand, taxi, happen, answer, back, stand）。

(6) [uː] : to, loose, through, Lucy
日本語の［ウー］のような感じで，日本語より大きく口を突き出す（[uː] のみならず [ʊ],[oʊ],[ɔː] は口先が突き出る）。

「ルーシーは，今夜ショーン（フィアンセの）と帰ってくるでしょう」
Lucy will come home with Sean (her fiancé) this evening. (Sean:[ʃɔ́ːn])

(7) [ʊ] : book, should, put, hood
日本語の［ウ］にわずかに［オ］がある感じで，日本語より口を突き出す。

「私はこの本を置くことがどうしてもできません（面白いので）」
I just can't put the book down.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

(8) [oʊ] : note, no, slow, toe
日本語の［オ］を強く，［ウ］を弱く付ける感じ。

「これを読者に説明する注釈がない」 There is no note explaining this to readers.

(9) [ɔ:] : cloth, cost, dog, salt
日本語の［オ］より口を大きく縦に開け，舌は低く奥に引く。米語では，[ɔ] に [:] がついて長く発音されることに注意。

「塩の値段は，輸送費により全国で値段はさまざまです」
Salt costs vary throughout the country due to transportation costs.

(10) [ɑ] : hot, lock, not, pot, rock, stop, Tom
日本語の[ア]より大きく口を縦に開ける。そのため，[オ]音がいくぶん含まれる。

「トムはセクシーだけど，ダンの方がもっといいわ」 Tom is hot, but Dan is hotter.
＊ hot「かっこいい，すてき，かわいい」

注 4

日本語母語者の多くが [ɔ] と発音しそうな音は，実は [ɑ] であるケースが非常に多いので注意が必要である。[ɔ] が単独でくるケースは米語ではかなり少ないと考えた方がよい。

(11) [ə] : Canada, about, and, kilometer, tulip, stamina, custom, calcium（下線で示した部分）
全ての母音の中間にあるような短い曖昧音。弱音なのでストレスはこない。

「カナダの文化と習慣について，もっと話してください」
Please tell me more about Canada's culture and customs.

(12) [ʌ] : but, fun, luck, come
[ə] 音にストレス（強勢）を持った音が [ʌ]。

「私は参加しなかったけど，見ててとても面白かったですよ」
I did not participate, but it was great fun to watch.

(13) [ɚ] : bird, term, third
[ə] の後に [r] の響きが少し加わる。[ə] と違い，ストレスがくることがある（bird:[bɚ́:d]）。

「彼は 1989 年に 3 期目の当選を果たしました」 He won a third term in 1989.
(win, won, won)

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

（14）[aɪ] : eye, iron, idea
［ア］を強く［イ］が少しある感じ。

「彼女が非常に喜んでいたことは，彼女の目（の輝き）から明らかだった」
It was clear from her eyes that she was very pleased.

（15）[aʊ] : out, house, count
［ア］を強く［ウ］が少しある感じ。

「夜空の星を全て数えるのは不可能だ」
It is impossible to count every star in the night sky.

（16）[ɔɪ] : boy, joy, join
［オ］を強く［イ］が少しある感じ。

「その少年は去年の夏，その組織に入った」 The boy joined the organization last summer.

注 5

同じ母音でも，有声音の前にあるときはより長く，無声音の前にあるときはより短い（例：bad, bat）。

「その不良のバットをそのバッグに戻して」 Put the bad bat back in the bag.
(put, put, put)

2. 英語の子音

1）破裂音（または閉鎖音）（息を閉鎖・破裂することによって発生する音）

（1）[p] : pajamas, pink, push
日本語のパ行の子音部分に近く，強く破裂するように発音。

「私は暑い夏はピンクのパジャマを着ます」
I wear my pink pajamas in the summer when it's hot.
《pajamas のように常に複数形の名詞は **24**》

（2）[b] : band, begin, belief
[p] の有声音。

「そのバンドはすぐにレコーディングを始めた」 The band began recording immediately.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

(3) [t] : towel, title, take, two
日本語のタ行の子音に近く，舌先は上歯茎の位置。

「車で 2 時間かかります」 It takes two hours by car.

(4) [d] : daily, date, diary
[t] の有声音。

「英語でブログを書き始めるか，日記をつけなさい」
Start a blog, or keep a diary in English.

(5) [k] : key, keep, crop
日本語のカ行の子音に近く，舌の奥を上顎の後ろの方に強くあてる。

「常にその鍵を身に付けていてください」 Please keep the key with you at all times.

(6) [g] : gas, good, guilty
[k] の有声音。

「燃費のよい車が欲しいんです」 I want to get a car that gets good gas mileage.

注 1

無声破裂音 [p, t, k] が音節の始めにあり，次に強勢のある母音が続く場合，帯気音となる。帯気音は閉鎖音にもかかわらず空気がいくぶん出てくる（peak [pʰíːk], time [tʰáɪm], cook [kʰúk]）。

「さあ，料理をする時間だ！」 Now it is time to cook!

(7) [ʔ] : beaten [bíːʔn̩], kitten [kíʔn̩]
[k] よりさらに奥（声門部）の破裂音。例えばインフォーマルな no の一つである uh-uh（「ウウン」）は [ʔʌ́ʔʌ̀] と発音される。また，[n] 音の前の [t] 音の代わりとしても使われる。上の語はいずれもこのタイプ。

「私の子猫は 6 か月です」 My kitten is 6 months old.

(8) [ṭ] : battery [bǽṭ(ə)ri], bitter [bíṭɚ], butter [bʌ́ṭɚ], letter [léṭɚ]
舌先が歯茎をはじく（瞬間的に触れる）有声音であり，[t] や [d] 音のような完全な閉鎖音ではない（よって [ṭ] 音は厳密に言えば閉鎖音というより‘はじき音’）。日本語のラ行の子音に似ている。

「私たちが本当に必要なのはよりよい電池だ」 What we really need are better batteries.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

2）摩擦音（調音器官が狭まり，息の通過の際の摩擦で発せられる音）

（9）[f] : far，fast，suffer

下唇を上歯につけ（この部分が日本語のファ行の子音と異なる），息を強く吹く。

「これは速くて，はるかに経済的だ」 It is fast and far more economical.

（10）[v] : visit，save，voice

[f] の有声音。

「ボイスメールをファイルに保存することができます」
You can save your voice mail to/in a file.

（11）[θ] : think，thirty，healthy

舌先を上前歯の裏，または上下の歯の間に挟んで息を強く出す。

「健康な食生活を考える絶好の機会です」
It's a great time to think about healthy eating.

（12）[ð] : the，that，bathe

[θ] の有声音。

「私は暑い気候は嫌いですが，日光浴は好きです」
I hate hot weather, but I love to sunbathe.

（13）[s] : safe，salad，circus

日本語のサ行（[シ] を除く）の子音とほぼ同じ。日本語よりやや摩擦が大きい。

「生卵を食べて大丈夫かなあ？」 Is it safe to eat raw eggs?
(eat, ate, eaten)

（14）[z] : zoom，zoo，rise

[s] の有声音。

「このデジカメにはズームレンズがない」 This digital camera doesn't have a zoom lens.
(digital:[dídʒətɨ])

（15）[ʃ] : sheep，shadow，ship

日本語の［シ］の子音より摩擦が強い。

「私は木陰でランチを食べました」 I ate my lunch in the shadow/shade of a tree.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

注 2

① [s]（舌先が歯茎に接近）と [ʃ]（舌を後部歯茎に接近）の違いに注意：seat – sheet, sea – she, sip – ship, sit – shit「糞」

「彼女，私の隣の椅子に座ることができる？」 Can she sit on/in the chair next to me?

②その他の注意すべき発音に [tu] がある。いわゆる日本語の [ツ] ではなく [トゥ]：tour [túər], two [tú:]

「2 台の観光バスは，すでにここに停車しています」
Two tour buses are already parked here.
《parked は形容詞（parked buses）**56** 注 4》

(16) [ʒ] : vision, pleasure, seizure
[ʃ] の有声音。

「私の視力は弱く，聴力は十分ではありません」
My vision is not clear and my hearing is not good.

(17) [h] : had, he, head
日本語のハ行（[フ] を除く）の子音とほとんど同じ。

「彼は会社の寮に 2 年間住んでいました」
He had lived in the company's dormitory for two years.

3）破擦音（破裂音の直後に摩擦音がつづく）

(18) [ts] : cats, hats
日本語の［ツ］の子音に近く，舌先は上歯の歯茎の位置。

「それは 1 か月約 25 ドルかかる」 It costs me about 25 dollars per month.

(19) [dz] : ends, friends, bends
[ts] の有声音。

「それはハサミで切れ，簡単に曲がる」 It can be cut with scissors and it bends easily.

(20) [tʃ] : church, pitcher, habitual
日本語の［チ］の子音に近い。舌は歯茎の後部の位置。

「私自身は，定期的には教会に行ってはいない」
I myself don't go to church on a regular basis.
《church は冠詞抜きで使われることが多い **72**-1)-B)》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

(21) [dʒ] : giant, gym, adjust
[tʃ] の有声音。

「マーケットは，その新たな現実に対して適応するだろう」
The market will adjust itself to the new reality.

4) 鼻音（口からの通気を閉鎖し，鼻腔を通じて出る音）

(22) [m] : mirror, moon
日本語のマ行の子音を少し粘り強く発音。

「その湖は空を映す鏡のようだ」 The lake is like a mirror that reflects the sky.

(23) [n] : narrow, neat, noon
日本語のナ行の子音に近く，舌を上顎に押し付けて鼻から息を出す感じ。

「その道は狭く急です」 The street is narrow and steep.

(24) [ŋ] : hang, ink, finger
[k] や [g] と同じ舌の位置。この音は語の頭には現れない。

「この壁に鏡を掛けたいの」 I want to hang a mirror on this wall. (hang:[hǽŋ])

5) 側音（舌先が歯茎の位置で閉鎖音を作り，息が舌の両側から出る）

(25) [l] : light, million, later, life
‘明るい l’ と呼ばれ，母音および [j] の前に現れる。唇は横に張る［i］の形。

「850 万人が第一次世界大戦で亡くなりました」
Eight and a half million people died in the First World War.

(26) [ɫ] : people, feel, bulb, school
‘暗い l’ と呼ばれ，後舌面が軟口蓋（注 3）に向かって盛り上がるため，[u] のような響きを持つ。語末および子音の前に現れる（次の例文には [l] と [ɫ] のある語が二つずつある）。

注 3

上の歯，歯茎，そして歯茎から奥は舌でなぞって見ればわかるが，硬い口蓋があり，奥の方に軟らかい口蓋が続いている。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

私は，学校は後々の人生での成功に必要だと感じます」
I feel school is necessary to succeed later in life.

注 4

[m] [n] [ɫ] の子音は主音節 [m̩] [n̩] [ɫ̩] になり得る（prism [prízm̩]，sudden [sʌ́dn̩]，tunnel [tʌ́nɫ̩]）。主音節は，例えば［ホンダ］の［ン］は日本語では主音節であるが，英語の [Honda] の [n] は主音節ではなくこの語には音節は二つしかない。主音節になる音はそれだけで音節になることができるので，より長く発音される。

「急に，そのトンネルは小さくなった」 All of a sudden, the tunnel became smaller.

6）接近音（上下の調音器官を接近させて有声音を出すが，摩擦音が生じるほどは接近しない）

（27）[j] : yield，yard

舌の位置は [i] または [ɪ] と同じで，そこから急速に後ろの母音に移動。

「1 ヤードは 3 フィート，もしくは 36 インチです」 A yard is three feet or 36 inches.

（28）[w] : wood，way

舌の位置は [u] または [ʊ] と同じで，そこから急速に後ろの母音に移動。

「彼らは料理に薪を使いましたか」 Did they use wood for cooking?

（29）[r] : read，reach

舌先を歯茎の後部に向かって持ち上げて少し奥の方にそり返す。唇を [u] の形で少し丸め，舌先は弛緩する。[l] 音は舌先が閉鎖音を作り息が舌の両側から出るが，[r] 音は逆に舌の両側が閉鎖し舌先から息が出る感じである。

注 5

日本語母語の英語学習者にとって，最も難しい音は言うまでもなく [r] 音と [l] 音である。日本語のラ行の [r] はこのどちらにも似て非であり（米語を母語としている者にとって日本語の [r] 音は米語の [d] 音として認識される。ということは私たちが米語の [r]，[l]，[d] を日本語訛りで発音するとアメリカ人の耳には全て [d] に聞こえるということを意味している），この二つの発音を難しくしている。非常によく発音される音であるため，それを含む英単語を正しく言えるように発音の練習をしっかりしておかないと，英語のネイティブがわからないということがしょっちゅう起こることになる。店で [l] と [r] 音のあるものを注文すると，いつも店員に「何を言ってるんだろう？」と怪訝な顔をされるので，ほかのものを注文しているといったような話をよく聞く。

[l] 音と [r] 音はペアでコントラストを成している。その違いを意識することは，それらの正しい発音に非常に役立つ。そのコントラストを以下に簡単にまとめておく。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

1. [l] は唇が [i] の形で，[r] は [u] の形。
2. [l] は舌先が少し緊張し，[r] は弛緩する。
3. [l] は舌先で閉鎖させ，息は舌の左右から出る。[r] は舌先は閉鎖しないで，息は舌先から出る。

[r] と [l] のプラクティスのできる単語の例：
jewelry，religion，thrilling，really，strawberry，reluctantly，delivery，particularly
read，right，pray
lead，light，play

「あなたに約束できないけど，トライするよ」 I can't promise you, but I'll try.
—「やった〜！」 —All right!
「そのケーキはとてもおいしかったです」 That cake was really delicious.
《really tasty, really nice も可で，really delicious の方が強調的》

「彼女の英語は急激によくなってきています」
Her English is rapidly getting better.（rapidly:[rǽpɪdli]）

「私は旅行が好きです」 I like to travel.
(travel:[trǽv(ə)ɫ], trouble:[trʌ́bɫ])
《I like traveling. も可。不定詞と動名詞の両方をとる動詞は **191**-3）参照》

cf.「私にはこの問題は非常に難しい」 I have a lot of trouble with this question.
「彼女はちょっと前にそのカウンターにいた」 She was at that counter a little while ago.
「外出するにはもう遅すぎるわ」 It's already too late to go out.
「大変申し訳ありません」 I'm terribly sorry.
「彼は自然食品しか食べません」 He doesn't eat anything but natural food(s).
(natural:[nǽtʃrəɫ])

「彼はオーストラリアに行ったよ」 He's gone to Australia.（'s = has）
「私は，市の図書館で仕事をしています」 I have a job at the city library.（job:[dʒɑ́b]）
「あなたのタオルを使っていいですか」 May I use your towel?（towel:[táʊ(ə)ɫ]）

注 6

[ṭ] のある語ですでに紹介してある語も含めて例を挙げておく。日本語母語者にとって，これらの語の発音も決してやさしくはない（batter [bǽṭɚ]，fatter [fǽṭɚ]，motto [mɑ́ṭoʊ]，water [wɑ́ṭɚ] or [wɔ́:ṭɚ]）。

「もしきみがそんなふうに食べ続ければ，太るだけだよ」
If you keep eating like that, you'll only get fatter.

「あなたのモットーは何ですか」 What's your motto?
「水は生命にはとても大切だ」 Water is very important for life.
《water はその温度に関係なく用いられ，日本語の「湯」も含む》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

Part 2　アクセントとイントネーション

3. アクセント

正しくアクセントを置くことは非常に重要である。日本語の場合は一つ一つのシラブル（音節）がだいたい同じ長さ（リズム）で発音されるが，英語ではアクセントのあるシラブルの音が長く，大きく，高くなり，その前後のシラブルが弱音になったり，全く発音されないことがよくある。アクセントの位置を間違えるだけでも，英語のネイティブの耳には，どんな語が言われたかわからない場合が少なからずあるのも納得できる。

(1) ほとんどの二音節の名詞と形容詞は，最初のシラブルにストレス（強勢）がくる：water，England，handsome，clever

「彼はとてもハンサムで頭がいいです」　He is very handsome and clever.

(2) ほとんどの二音節の動詞は，最後のシラブルにストレスがくる：begin，consult

「彼は牧師にアドバイスを求めました」　He consulted his priest for advice.
(priest:[prí:st])

(3) シラブルが三つ以上ある語には，第 2 アクセント [ˋ] がある：photographic [fòʊtəgrǽfɪk]，nationality [næ̀ʃənǽləṭi]

「その犠牲者は誰かまだわかっていないし，国籍も不明だ」
The victim has not been identified, and his nationality is unknown.

注 1

一般にアクセントを二つ持つ語を単純に発音する場合，上の例のように語末に近い方がより強い（第 1 アクセント [ˊ]）。

(4) -ic，-sion，-tion の語は，後ろから 2 番目のシラブルにストレスがくる：graphic，tension，revelation（暴露，啓示）

(5) -cy，-ty，-phy，-gy，-al の語は，後ろから 3 番目のシラブルにストレスがくる：democracy，dependability（信頼性），photography，critical（批判的な，危機の，重大な）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「言論の自由は民主主義にとって重要な意味をもつ」
A free press is critical for democracy.

(6) 合成語のストレスのパターン
A) 名詞のストレスは最初のシラブル：darkroom, greenhouse
B) 形容詞のストレスは 2 番目のシラブル：bad-tempered, old-fashioned
C) 動詞のストレスは 3 番目のシラブル：underestimate, overeat

(7) スペルが同じである名詞と動詞では，第 1 ストレスは，名詞では最初のシラブルに，動詞は最後のシラブルにくる：insult [ínsʌlt][ìnsʌ́lt], increase [ínkrìːs][ìnkríːs]

「私はそれを侮辱と解釈し，彼女と付き合うのをやめました」
I took it as an insult and stopped seeing her.

「彼らは彼と彼の妻を侮辱した」 They insulted him and his wife.

注 2

日本語の単語で英語でも使えるもの，例えば Yokohama，Toyota のストレスは後ろから 2 番目のシラブルにくる。そして，英単語は一般にストレスのあるシラブルの前後の母音が弱音 [ə] になるケースが多い（Yokohama [jòʊkoʊhá:mɑ]，Kyoto [kjóʊtoʊ]，Osaka [oʊsáɑ]，Kobe [kóʊbi:]，Hiroshima [hìrəʃí:mə]）。

「エミはトヨタを持っていて，それを運転するのが好きです」
Emi has a Toyota, and she likes to drive it.《a Toyota の a は **22**-4)》

4. リズム

英語のセンテンスは，リズムをよくするためにストレスが同じような間（ま）を置いて起こる傾向がある（下の文は English の E にもストレスがある）。

「英語の強勢は，決まったタイミングで起こる傾向にある」
Strésses in English ténd to recúr at régular íntervals of tíme.

注

また，名詞・形容詞・副詞・動詞のいわゆる内容語にはストレスがくるが，代名詞・助動詞・前置詞・冠詞などの機能語にはストレスはこない傾向がある。

「彼女は今夜は幸せそうだったわ」 She was looking háppy toníght.

《was looking ではなく，単に looked としても可。進行形は‘一時性’が感じられる。進行形の‘一時性’は **9**-3)-D)-（b）参照》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

5. トーンのパターン

話し言葉では，**4** で説明したリズムのほかに，トーンのパターンの違いで伝える意味が変化する。トーンのパターンを知ることは，話し手の感情の状態を知るために重要である。トーンの調子によって，強調したり，ジョークにしたり，見下したような，脅したような，怒ったような，哀しいような，幸せなようないろいろな感情を相手に伝えることができるからである。

一般に，文の最後でトーンは落ちる。これが落ちず，上がるか同じレベルのままであれば，まだ続く感じを与える。また，疑問文は文の最後が上がるが，who, what, when, how などの疑問詞のある疑問文は下がる。これは，wh- 疑問詞だけで，質問に対する答えを期待するシグナルとして十分だからである。

Perhaps? （'Perhaps.' って言ったの？）
Perhaps, （たぶんね...）

Dayna is smart. （デイナはスマートです）《強調したい語は smart》

Dayna is smart. （デイナがスマートです）《強調したい語は Dayna》

He went to Texas. （彼はテキサスに行った）

He went to Texas? 《それを信じないとき》

He went to Texas? 《丁寧な質問》

He went to Texas. （《相手が疑っている》彼が行ったのはテキサスだよ）
《確信ありの調子》

Yes でもいろいろある。

Yes. 'Yes'

Yes? （'Yes' と言ったの？）

Yes. （ええ，聞いていますよ。続けてください）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

Yes. 《疑いを含んだ返事》

Yes. 'I'm certain.'（そうだよ）

注

字面ではわからないほかの例として，顔の表情やジェスチャーなども重要なコミュニケーションの要素である。これらのボディーランゲージによって，メッセージを強めたり，発話の感情的要素を加えたり，言葉を補助したり，言葉の代わりになったりする。

6. センテンスの強勢のパターン

センテンスをしゃべるとき，音の高低は変化する。強勢は普通，センテンスの最後の語にくる。特に早口でしゃべる場合は，一つだけ強調音が最後にくるのが一般的。英語のセンテンスは最初に旧情報（お互いがすでに知っていること）がきて，そして新情報（話し手から聞き手に伝えたい重要な情報）がくるという流れが基本だからである。また単語のアクセントは文で発音されるとき落ちることがよくある（ここでは，**4** で説明した細かいリズムは描ききれないので含めない）。

「その少年は妹にそのプレゼントを買った」 The boy bought the present for his sister.

新情報（聞き手のとってのニュース）がその他の位置で起きた場合はそこに強調音。

「私は金曜日にドイツに飛行機で行く予定です」 I'm flying to Germany on Friday.

強調音が 2 つ以上の場合もあり得る。

「彼はサンドイッチを作りに台所に行った」 He went to the kitchen to fix a sandwich.

「その家を直した者は私の兄だった」 The guy who fixed the house up was my brother.

「リンゴとオレンジとモモが欲しい」 I would like to get some apples, oranges, and peaches.
(apple:[ǽpɨ̞])《アイテムのリスト》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

yes/no 疑問文

「クッキーいかがですか」 Would you like some cookies?

「コーヒーにクリーム要りますか」 Do you take cream in your coffee?

Wh- 疑問文

「どこでそのカメラを手に入れたの？」 Where did you get the camera?

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

第2章

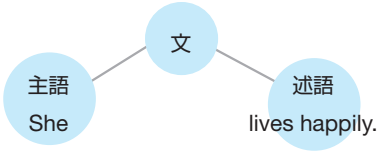
文の要素

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

第2章 文の要素

7. 文

文は一つのまとまった意味（考えなど）を表す。一般に主語と主語について述べる部分である述語に分けられる（主語・述語を主部・述部としている文法書もある）。



「彼女は幸せに暮らしています」 She lives happily.

注

主語・述語が揃っていない例外的な‘文’がある。次の例は，省略によるものと命令文である。

「大したことないよ」 (It) doesn't matter.
「リラックスして，そして無理しないで」 Relax, and take it easy.

発音・イントネーションのところでも触れたが，英語のセンテンスは一般に**旧情報**（話し手も聞き手も知っている情報）から**新情報**（いわゆる聞き手にとってのニュース）という流れがある。特に書き言葉においてこの傾向は顕著で，話し言葉はさらに強勢（ストレス）によって新情報を示せる。

英語と日本語のパターンの違い：

〈英語〉

［主語 → 述語］一般に語順が決まっていて，語の品詞は文の位置によって決定できる場合が多い。

I　prefer bake sales to car washes for fundraising.
主語　　述語

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

〈日本語〉

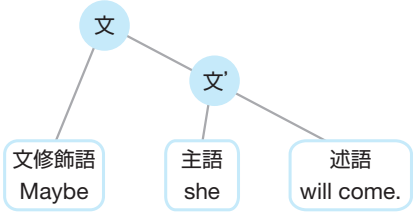
［主題 → コメント］ 語順は比較的自由で，助詞（下の例文では‘は’）によって主題が示される。

募金集めには，洗車よりクッキーなどを売る方がよい。
主題　　コメント

また旧情報は往々にして略される。この傾向は話し言葉でより顕著で，周りの状況や前後関係からセンテンス内で何が略されているのかを知る感を養う必要がある。また適切な省略の仕方を知ることで，より自然でスムーズなコミュニケーションが可能となるのである。

A：「月曜日にテストある？」 Do you have an exam on Monday?
B：「2 つある」 (I have) two exams (on Monday).
A：「どれ？」 Which ones (do you have)?

文全体は，副詞である文修飾語（Yes，No，Perhaps，Maybe など）に修飾されることができる。



「たぶん彼女は来るだろう」 Maybe she will come.

8. 名詞を中心とした主語の構造

1）名詞（名詞・代名詞はそれぞれ３章と４章）

主語は，名詞（句・節も可）または代名詞などの名詞相当語句である。名詞は人，場所，一般概念の名を表す。また名詞の役割は，主語（S—Subject）だけでなく述語の中の目的語（O—Object で直接目的語が DO—Direct Object，間接目的語が IO—Indirect Object）や補語（C—Complement）にもなる。代名詞は名詞の代用である。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

名詞（句）＝ [(限定詞)3＋(程度の副詞)n＋(形容詞)n＋名詞＋(前置詞句) or 代名詞]

「それは 4 月の極めて素晴らしい日だった」 It was an extremely fine day in April.
限定詞　副詞　形容詞 名詞 前置詞句

注 1

本書では‘名詞’という語で，名詞のみならず名詞句，名詞節も含めた概念で使っている場合がある。そして他品詞も同様の扱いである。また（　）はオプショナルを表し，右の数字 3 は，上限 3 つまでを表わし，n は原則上限なしを表す。ただし，形容詞と副詞の連続は 3 を超えることはほとんどない〈形容詞が複数ある場合の並び順の目安については **46** 参照〉。

注 2

厳密に言えば，名詞は名詞の後置の修飾要素として前置詞句（前の名詞を修飾するので品詞は形容詞）をオプショナルにとる以外に，(a) 形容詞句，(b) 形容詞節もとることができる。

「角に立っている少年はわんぱく（小僧）だ」
The boy standing on the corner is a brat.（a）

「ポールが書いた詩がその雑誌に掲載されました」
A poem written by Paul appeared in the magazine.（a）

「私が住んでいた家は小さくて大きな庭がありました」
The house I lived in was small and had a huge garden.（b）

「私の父はとても素晴らしい人で，今までで最高の友人でした」
My father was a very good man and the best friend I ever had.（b）

2）形容詞（5 章）

A）形容詞は，名詞・代名詞の性質や状態を述べたり，意味を補足する。(a) 名詞を直接修飾する形容詞は限定用法と呼ばれ，(b) 述語の位置に現れる叙述用法も主語または目的語である名詞・代名詞の性質・状態を形容する。

「誰しもきれいな水を飲んだり，きれいな空気を吸いたがるものです」
Everyone wants to drink clean water and breathe clean air.（a）

「この水は飲むのに十分きれいです」 This water is clean enough to drink.（b）
(drink, drank, drunk)

「この靴は泥だらけだわ」 These shoes are muddy.（b）

「私はいつも自分の車をきれいにしています」 I always keep my car clean.（b）
(keep, kept, kept)

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

B）形容詞（句）＝（程度の副詞）n ＋ 形容詞 n ＋（前置詞句）

「天候は極めてよかった」 The weather was really very nice.
副詞 副詞 形容詞

「僕の古い車は何の役にも立ちません」 My old car is good for nothing.
形容詞 前置詞句

《My old car is useless. も可》

3）限定詞（6 章）

限定詞は冠詞（a, the），指示詞（this, that など），所有代名詞（my, his など），数量詞（all, both など多数）を含む。**名詞の数や広がりを限定する語**である〈限定詞が複数あるときの並び順に関しては，**62~64** 参照〉。

「彼はヒューストンに住むもう一方の祖父母に会いに行くために，彼女の車を借りた」
He borrowed her car to visit his other grandparents in Houston.

9. 動詞を中心とした述語の構造

述語 ＝ 助動詞 ＋ 動詞（句）＋（副詞〔句〕）n

「彼らはそのお店でそれを買うだろう」 They will buy it in the store.
助動詞 動詞句 副詞句

1）副詞（7 章）

主として（a）動詞を修飾（方向，位置，様子，時間，度数など）したり，（b）形容詞（程度）と（c）他の副詞（程度），あるいは（d）句・節・文全体を修飾してその意味を補足したり，限定したりする。他の品詞に比べ，文の中での位置はより自由である。

「これは気をつけて使ってね」 Use this carefully.（a）
「彼の成績は非常によい」 His grades are remarkably good.（b）
「彼は手紙をとても注意深く読んだ」 He read the letter very carefully.（c）
(read, read:[réd], read:[réd])

「驚いたことに，我々が勝った」 Surprisingly, we won.（d）

副詞には副詞（句），前置詞句，副詞節の 3 つのパターンがある。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

A）副詞（句）

程度の副詞が他の副詞をオプショナルに修飾できる〈副詞が複数ある場合の順序に関しては **77**-5）参照〉。

副詞（句）＝（程度の副詞）n ＋ 副詞

「ジェイムズは自分の仕事をとても早く終えた」 James finished his work very quickly.

B）前置詞句

「その少年たちは町で夕食を楽しんだ」 The boys enjoyed their dinner in the city.

C）副詞節

副詞節 ＝ 接続詞 ＋ 節

接続詞は従位接続詞で，従節を主節へ結び付ける役割がある。

「私は母が帰ってくる前に宿題を終えた」

I finished my homework before my mother got home.（注 1）

注 1

2つの節には時間の前後関係があるが，接続詞 before により時間の前後関係が明らかなので，大過去（過去の過去）had finished の代わりに単純過去 finished も使われる〈**139**-（2）参照〉。

2）動詞（句）（8 章）

動詞は，人や物事についてその状態・動作を述べる。自動詞と他動詞があり，1語で自・他両方ある場合が多い。

動詞句 ＝ [連結動詞 ＋ （a）名詞（句）／（b）形容詞（句）／（c）副詞（句）]

or

[（d）動詞＋（名詞〔句〕）2 ＋（副詞〔句〕）]

「ジョンはジャーナリストです」 John is a journalist.（a）

「アリスはとてもきれいです」 Alice is very pretty.（b）

「生徒たちは部屋にいます」 The students are in the room.（c）

「彼はサリーにそのお金をあげました」 He gave the money to Sally.（d）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

注 2

‘名詞（句）’は，代名詞や名詞節のくることもある。

A）連結動詞は，be 動詞を始めとして他の動詞に比べてそれ自体の意味が薄く，**主語と他の部分に結びつける**役目がある。前述の（a）～（c）の文はいずれも be 動詞が左右の語（句）をイコールで結んでいて，右の方を補語という。**補語は，主語についてそれが何であるか，あるいはどんな状態にあるか補足説明した語**。補語は主に名詞か形容詞で，たまに副詞がくることがある。

注 3

① be 動詞以外の連結動詞の例を挙げておく。いずれも‘主語＝補語’の関係がある。

「（外見・格好が）変だよ／おかしいよ」 It looks funny.
「彼らは疲れてきました」 They became tired.《tired は分詞で形容詞扱い **56**》

② The concert was yesterday. の yesterday は副詞で，前述の動詞句の文型の連結動詞（c）に当てはまる。また，（c）のセンテンスの in the room は前置詞句で場所を示す副詞句でもある。つまり，副詞（句）は補語になれると考えてよい。

B）［動詞 ＋（名詞〔句〕）2 ＋（副詞〔句〕）］では名詞は目的語に相当する。**目的語は典型的には動詞 (他動詞) の表す動作の及ぶ対象となる語句**（名詞，代名詞またはそれに相当するもの）である。

「彼女は日に 3 クラスを教えています」 She is teaching three classes a day.
(class:[kláːs])

また目的語には，動詞の目的語のほかに前置詞の目的語もある。

「私は彼にそれを買いました」 I bought it for him. 《him のカジュアルな発音は [ɪm]》

動詞の（d）［動詞＋（名詞〔句〕）2 ＋（副詞〔句〕）］の文型パターンは以下になる。

「ドアが開き，彼女が部屋に入ってきた」
The door opened, and she came into the room.（d)-1《S ＋ V》
「僕はきみを信じるよ」 I believe you.（d)-2《S ＋ V ＋ O》(you のカジュアルな発音は [jə])
「おもちゃをその男の子にやった」 I gave the boy a toy.（d)-3
《S ＋ V ＋ IO ＋ DO》《I gave a toy to the boy. も可》

注 4

（d)-1 が第 1 文型，A）が第 2 文型，（d)-2 が第 3 文型，（d)-3 が第 4 文型である。主語＋動詞＋目的語＋補語（S ＋ V ＋ O ＋ C）の第 5 文型の O ＋ C は実質 S ＋ V ＋ C で

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

（次の例文では My coffee is hot. であるということ），それが他の文に組み込まれた形と言える〈第 5 文型のさらなる詳細は **94** 参照〉。

「コーヒーは熱いのを頼むよ」 I(’d) like my coffee hot.
《C ＝形容詞》(coffee:[kɔ́:fi]or[káfi], hot:[hát])

「彼女が 19 歳のとき，私は彼女を妻にしました」
When she was nineteen, I made her my wife.《C ＝名詞》

3）助動詞（9 章～ 12 章）

助動詞は本動詞の時制・相（進行と完了）・態（能動態と受動態）などの形態を作るための補助として用いられる。

助動詞 ＝ 法助動詞 or 時制 ＋（法助動詞句）（完了）（進行）（受動態）
or 命令形

注 5

理論的には，or で示されたもの以外は全て同時に起こりうるが，実際には助動詞が重い感じになり不自然になる。

A）法助動詞（句）（9 章）

可能・義務・許可などの話し手の心的態度を表し，本動詞を補助する。法助動詞句がくる場合は時制をとることが可能であるが，**法助動詞がくる場合は時制はとらない（法助動詞 or 時制）**。つまり，He could went home. といった文は不可である。

上の助動詞全体の文型が示すように，法助動詞と法助動詞句や進行形は同時に起こりうる。日本語の語感が邪魔して英作し難いケースもあるので，このパターンに慣れる必要がある。

「私はそこに行かなければならなくなるだろう」 I will have to go there.
《will は単純未来で，have to は義務》

同様に，法助動詞と進行形が同時に使われる場合も解釈が難しい。

「今日は，私たちの英語をどう向上させるのかについて議論をします」
Today we will be discussing how to improve our English.
＊ will be ～ ing「～することになっている」

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

注 6

法助動詞や法助動詞句（または先に説明した限定詞もであるが）といった文法用語は，非常に重要であるにもかかわらず多くの英語のテキストでは使用が避けられている。助動詞といっても何種類かある。いろいろある助動詞は，きちんとそれぞれの機能を理解する必要がある。それぞれの異なった機能を理解しなければならないのに，それぞれの異なった用語がないというのもおかしなことである。あまりに細かい，言語学者しか使わないような専門用語は覚える必要はないが，この法助動詞（句）といったような用語は，基本的で重要な文法項目の理解を助けるツールとなるものなのである。

法助動詞（句）には以下の語（句）がある。

法助動詞：

will，would，shall，should，can，could，may，might，must，dare，need，ought to

法助動詞句：

be able to，be going to，have to，be to，used to，be allowed to など

「私は明日はここにいません」 I won't be here tomorrow.
「今夜，何をなさりたいですか」 What would you like to do this evening?〈注 7〉
「今夜，電話しましょうか」 Shall I phone you tonight?
「それはよい映画だよ。きみ見なきゃ」 It's a good movie. You should see it.
「そんなに遅く寝てはだめだよ」 You shouldn't go to bed so late.
「20 ドル札くずれる？」 Can you change twenty dollars?
「昨日の夜は疲れていたけど，眠ることができなかったんだ」
I was tired last night, but I couldn't sleep.
「スーはそのパーティーに来ないかも」 Sue may not come to the party.
「彼は今夜出かけるかもしれません」 He might go out this evening.〈注 7〉
「急がなくっちゃ」 I must hurry.
「あなたが来られることを望んでいます」
I hope you will be able to come.
「サラは自分の車を売るつもりです」 Sarah is going to sell her car.
(sell, sold, sold)
「歯医者に行かなくちゃいけないんだ」 I have to go to the dentist.
《the dentist の the に関しては **26**-2）と **71**-5）参照》
「私は早く起きる必要はありません」 I don't have to get up early.

B）時制（10 章）

時制は，過去・現在・未来というなじみのある三分法があるが，より厳密に言

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

うと過去か過去でないかの二分法で動詞の語尾変化がある。過去でない方は現在と未来を表せ，基本的には動詞の語形変化はない。

「彼女，この頃憂うつそうね」 She looks gloomy these days.
「彼は 6 時前に山から下りてきました」
He descended from the mountain before six.

未来を表す場合は，(a) will, be going to などの法助動詞（句）や，(b) 進行形など（下の例文は‘近未来の個人的予定’）の助動詞を使うか，(c) 現在時制に tomorrow などの時を表す副詞を使う（確定的未来の予定）。

「私は来年 20 歳になります」 I will be 20 next year.（a）
「私は今夜は外で食べるつもりです」 I'm going to eat out this evening.（a）
「仕事の後，家に帰る予定です」 I'm going home after work.（b）
「私は明日，家に帰ります」 I go home tomorrow.（c）

注 7

would，should，might，could などの法助動詞は，will，shall，may，can の過去とは限らない。次の文の should，would は，どちらも実質未来を表していることに注意（法助動詞は時制はとらない）。

「今夜コンサートに行ってもいい？」 Can I go to the concert tonight?
—「行ってはダメだよ」 —You shouldn't.
「あなたがもっと速く運転すれば，間に合うでしょうが」
You would be on time if you drove faster. (drive, drove, driven)

注 8

例えば call，called と will，would では，called と would はより‘遠い’という共通機能を含むが，それぞれの質は異なる。次の文の (a) called は時制的に‘遠い’ので過去となり，(b) would は‘遠’回しな表現でより丁寧な響きになる。また，(c) had は事実から‘遠い’ので仮定法過去が使われるケース。

「私は昨日の午後に彼に電話しました」 I called him yesterday afternoon.（a）
「どうぞお座りになってください」 Would you sit down, please?（b）
「もし今お金があれば，これを買うんだけど」
If I had any money now, I'd buy this.（c）

C）完了形

完了形には‘前の’という機能がある。**現在完了と単純過去の違いは，前者は‘前の’出来事が何らかの形で現在と繋がりを持っている**（よって時制は現在）。次

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

の最初の例文が含んでいる内容は，「宿題を終えたので，（今例えば）友だちのところに行ける」ということ。例文は（a）完了，（b）経験，（c）継続を表す。

「ちょうど宿題が終わりました」 I've just finished my homework.（a）
《このセンテンスの my は必要》

「私はドイツに 1 度行ったことがあります」 I have been to Germany once.（b）
「私は彼をもう 8 年以上知っています」
I have known him for more than 8 years already.（c）

（a）過去完了と（b）未来完了もある。

「ローズはスープを飲み終えていました」 Rose had finished her soup.（a）
「で，ジェイミーはスピーチを 7 時には終えているだろう」
So Jamie will have finished her speech by seven.（b）

D）進行形

（a）進行性があり，（b）一時性も表す。

「彼は文通相手にメールを書いています」 He is writing (to) his pen pal.（a）
(pen pal:[pénpæ̀ɫ])

「彼はシカゴに住んでいます」 He is living in Chicago.（b）《一時的に住んでいる》
cf.「彼はシカゴに住んでいます」 He lives in Chicago.《定住地的》

完了形も進行形もある文の例。

次の例文には，後半の節の助動詞は時制（過去），完了形，進行形の計 3 つある。つまり‘過去にあったこと’で，‘目が赤かった’ときよりさらに‘前の’出来事が‘目が赤い’という時点と繋がりを持ち，‘泣く’という行動は‘進行性’があったということを示している。

「たぶん彼女ははっきり見ることはできなかったでしょう。泣いていたので」
Perhaps she could not see clearly because she had been crying.

E）受動態（11 章）

主語が，動作する側から動作を受ける側になるときの他動詞の形態。英語は，日本語より受動態の使用率が高い。

「彼は大家に追い出されました」 He was kicked out by his landlord.
(landlord:[lǽndlɔ̀ːd])《大家が女性であれば landlady も可》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

注 9

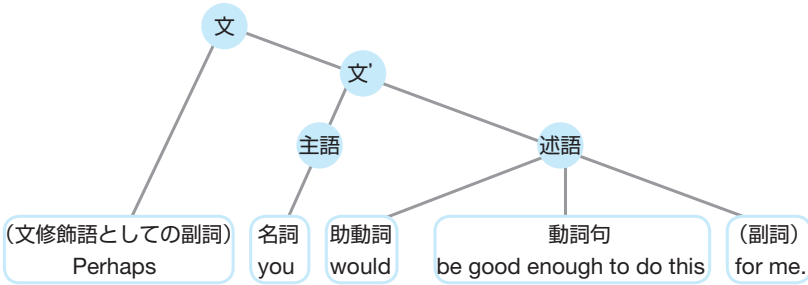
受動態を使って書くと文章が弱くなると述べているライティングの本があるが，これは一般論であって，もちろん受動態を使う必然性は日本語より高い。

F）命令形（12 章）

命令形には時制，法助動詞，完了形などがない。何かをさせる，命令・要求・依頼などを表し，動詞の形は原形。

「私のカメラ取って」 Get me my camera.
「子供たち，やめなさい」 Stop, children. (stop:[stáp])
「ちょっと待って」 Wait a second.
《考え直しての「ちょっと待てよ…」の意味のケースもある》

文全体のまとめ：



「できましたら，（私のために）これをやっていただけませんでしょうか」
Perhaps you would be good enough to do this for me.
《Would you be good ~? の丁寧な口語表現。perhaps は「できましたら」のニュアンス》

注10

文は主語・述語が基本だが，その文の中に追加的・補足的に説明が入ることがよくある。次の文の any of it と my Alex がそれで，追加的説明はコンマで区切られているが，口語ではもちろんコンマの部分に休止が入る。

「簡単じゃないよ，どれも…。でもそのように見せようとする傾向が僕にはあるな」
It isn't easy, any of it, but I tend to make it look that way.

「頑固だよ，アレックスは」 He is stubborn, my Alex.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

10. その他の文の要素

1）前置詞（14 章）

前置詞は一般に名詞（相当句）の前に置かれて前置詞句を作り（前置詞句＝前置詞＋名詞），その句と文中の他の語句との関係を表す。**前置詞句は，形容詞句または副詞句である。**

注 1

まれにではあるが，前置詞の後ろに形容詞や副詞がくることもある。

「ただでこのチケットを手に入れました」 I got this ticket for free.
《free は形容詞》(ticket:[tíkət])

「私たちはよく外国からのお客様があります」
We often have visitors from abroad.《abroad は副詞》

注 2

前置詞が 2 語以上ある場合もある。

「飛行機が飛び去り，見えなくなった」 The plane flew out of sight.

前置詞句のタイプは 5 つある。最初のセンテンスの前置詞句は形容詞句（名詞を形容するので形容詞）で，それ以外は副詞句（副詞は主に，動詞・形容詞・他の副詞を修飾する）。

「私は息子と競争しました」 I had a race with my son.《名詞を修飾》
「彼は家の中にいます」 He is in the house.《動詞を修飾》
「それって本当なの？」 Are you sure about that?《形容詞を修飾》
「洗濯は土曜日の早い時間にするよ」 I'll do the laundry early on Saturday.
《副詞を修飾》(laundry:[lɔ́:ndri], Saturday:[sǽtədeɪ])
《do the laundry といった表現の仕方に関しては **97**-3）-B）》
「スーはテーブルの上に花を置いた」 Sue put the flowers on the table.《目的語の述語》

上の the flowers on the table は，実質 The flowers are on the table. であり，on the table は the flowers の述語という関係にある。

2）準動詞（15 章）

分詞，不定詞，動名詞がある。動詞から得られ，準動詞には意味上の主語が必

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

ずあり（その主語は明示されていないケースが多い），実質‘文’の内容を持っている。つまり，‘文’を‘語’や‘句’に簡略化したものが準動詞。

A）分詞

（a）現在分詞と（b）過去分詞があり，主に名詞を修飾する形容詞として使われる〈分詞の動詞的用法は **9**-3)-C)，D)，E）の完了形，進行形，受動態参照〉。

「私は画家を目指しています」 I'm an aspiring artist.（a）
＊ aspiring ~「～を目指している」《インフォーマルに I'm a wannabe artist. も可》

「口語の日本語と文語の日本語とは違いがあります」
Spoken Japanese is different from written Japanese.（b）

B）不定詞

不定詞には（a）名詞用法，（b）形容詞用法，（c）副詞用法がある。

「彼はレストランでのディナーのために正装することにしました」
He decided to dress up for dinner at the restaurant.（a）
《to dress は動詞 decided の目的語なので名詞》

「最近，この島に来る観光客の数が落ち込みました」
The number of tourists to visit the island has fallen recently.（b）
《to visit は前の名詞 tourists を修飾するので形容詞》

「人はいくつになっても学べます」 No man is too old to learn.（c）
《to learn は前の形容詞 old を修飾するので副詞》

C）動名詞

動名詞は名詞として使われる。

「私たちは海岸線に沿ってドライブを楽しみました」
We enjoyed driving along the coast.

3）比較（16 章）

主に形容詞と副詞の程度を比較する比較変化で，（a）原級，（b）比較級，（c）最上級がある。

「できるだけ急ぎましょう」 Let's hurry as much as possible.（a）(let, let, let)
「彼女はかつてないほどエネルギッシュだね」 She's more energetic now than ever.（b）
(energetic:[ɛ̀nərdʒétɪk])

「経験は最良の師だ／何事も経験だよねえ」 Experience is the best teacher.（c）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

4）接続詞（18 章と 19 章）

接続詞は文中の語・句・節を結びつける語。等位接続詞と従位接続詞がある。

A）等位接続詞（18 章）

文法上対等の関係にある（a）語，（b）句，（c）節を結ぶ（and，but，or など）。

「私たちのところへ来て泊まって」 Come and stay with us.（a）
《Come to stay with us. とはあまり言わない。Come stay with us. は可。動詞 come は come stay といったふうにすぐ後ろに動詞の原形をとれる数少ない動詞の一つ〈**184** 注〉》
「その国はとても貧しいが，非常に美しい」
The country is very poor but very beautiful.（b）
「真面目に勉強しなさい。じゃないとテストに失敗するよ」
Study hard, or you'll fail the test.（c）

B）従位接続詞（19 章）

主節に従属させる節を導く。このタイプの文を複文という（注 3）。

注 3

文を構成する節（主語＋述語）単位の視点から述べると〈文を機能から分類するケースは **12** を参照〉，文は単一の節しかない単文と，等位接続詞によって２つ以上の節がお互い対等に結ばれている重文と，節が２つ以上あるが主節とそれに従属する従位節のある複文がある。

「牛は草と穀物を食べる」 Cows eat grass and grain.《単文》 (grass:[grǽs])
「すぐ起きなさい。じゃないと電車に乗り遅れるよ」
Get up at once, or you'll miss the train.《重文》
「これが私が昨日買った本です」This is the book which I bought yesterday.《複文》

a）名詞節

従位接続詞に導かれた従位節が主節に対して名詞の役割があるのが名詞節で，（a）主語（文頭に節である主語がくると，頭でっかちになり文全体のバランスが悪いので，形式主語の it を文頭に置くことが多い），（b）目的語，（c）補語になったりして，主節中の名詞と同等の働きをしたりするもの。

「あなたがこんなに上手に日本語が書けるとはビックリです」
It surprises me that you can write Japanese this well.（a）
「彼がいつ帰ってくるか知ってる？」
Do you know when he will return?（b）(know, knew, known)
「問題は，私の父が病気で寝ていることです」
The trouble is that my father is sick in bed.（c）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

名詞節は，（a）と（c）のような that，whether，if などの従位接続詞や，（b）のような who，what，which，when，why などの疑問詞（間接疑問文に使われる疑問詞は名詞節を導く接続詞）によって導かれる。従位接続詞の中では that が一番‘意味’が薄く，純粋に‘接続’する役目だけである。

b）形容詞節

関係詞節とも呼ばれ，このタイプの従位接続詞は関係詞と呼ばれる。**関係詞は，名詞（これらは節の前に先行するので先行詞と呼ばれる）の後ろに置かれ，その名詞を修飾する形容詞節を導く。**関係詞には 3 種類ある。

（1）関係代名詞：who，which，that，as，than，but（what は除く〈注 4 の①〉）

「この本を書いた男性を知っていますか」
Do you know the man who wrote this book?
《who は従節を主節に結ぶ接続詞と wrote の主語である代名詞の働き》

（2）関係形容詞：which，what，whose，whichever，whatever ですぐ後ろに続く名詞を修飾。

「トムという名前の少年を知っていますか」
Do you know the boy whose name is Tom? (Tom:[tám])
《whose は従節を主節に結ぶ接続詞と名詞 name を修飾する形容詞の働き》

（3）関係副詞：where，when，why，that（how は除く〈注 4 の②〉）

「ここがマーク・トウェインが生まれた家です」
This is the house where Mark Twain was born.
《where は従節を主節に結ぶ接続詞と‘生まれた場所’の副詞の働き》

注 4

① what は関係代名詞と先行詞である名詞・代名詞を兼ねている（複合関係代名詞と呼ばれる）。

「あなたのために何でもするよ」 I'll do what I can for you. (what ≒ anything that)

② how は関係副詞と先行詞である名詞・代名詞を兼ねている（複合関係副詞）。

「そんなふうにして私は勝ちました」 That's how I won.
《the way how は普通使われず，how か the way のどちらかが使われる》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

③ that は（a）関係代名詞，（b）関係副詞のどちらにもなることができる。

「必要なものは全部手に入れた？」 Did you get everything that you needed?（a）
《that は従節を主節に結ぶ接続詞と needed の目的語である代名詞の働き》

「私が帰った同じ日に彼らはパリに到着しました」
They arrived in Paris on the same day (that) I left.（b）
《that は従節を主節に結ぶ接続詞と left を修飾する副詞の働き》

c）副詞節

文の中で副詞としての機能を担う節で，‘時’‘場所’‘原因・理由’‘目的’‘結果’‘程度’‘条件’‘譲歩’‘比較’などを表す（when，where，because，since，as，if，though など）。

「降参するくらいなら死んだ方がましだ」 I will die before I give in.《時》
＊ give in「屈服する，降参する」(give, gave, given)

「どこでも好きなところに行って」 Go where(ver) you like.《場所》

「それをやるように頼まれたのでやりました」
I did it because I was asked to do it.《理由》

「それが何か見えるようにライトをつけて」
Switch the light on so that you can see what it looks like.《目的》

「私たちの先生は病気で来られませんでした」
Our teacher was sick, so he couldn't come.《結果》

「もしあなたが正しければ，私は間違っていることになります」
If you are right, then I am wrong.《条件》

「それをしたくなくても，あなたはしなければなりません」
You must do it even if you don't want to.《譲歩》

「彼は歳をとるにつれて無口になりました」
As he grew older, he became more silent.《比較》

注 5

同じ接続詞が（a）名詞節を導くケースと，（b）副詞節を導くケースの両方に用いられることは多い。

「いつ彼が帰ったのかわかりません」 I don't know when he left.（a）
《when 以下の節は，動詞 know の目的語なので名詞》

「彼が部屋に入ってきたとき，私はマネジャーと話をしていました」
I was talking to the manager when he came into the room.（b）
《when 以下の節は，動詞 was talking を修飾する副詞節》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

5）間投詞

間投詞は，驚きや喜びといった強い感情を表す際に使われる音やフレーズ。無意識的に発せられる傾向があり，日本語の間投詞にならないように気をつけること（間投詞のさらなる例は **206** 注 1 の④参照）。

「うわっ！　おいしそうなにおい！」 Wow! That smells good!
「しまった！　バスに傘を忘れた！」 Oh no! I left my umbrella on the bus!

11. 品詞のまとめ

以上をまとめると，品詞は主要品詞でハッキリとした意味を持つ名詞，形容詞，副詞，動詞の「**内容語**」と，主に文法的なつながりを示す助動詞，代名詞，限定詞，前置詞，接続詞の「**機能語**」に大別できる。日々新しく生まれ変っているのは前者であり，機能語はほとんど変化しない。

また，多くの単語は一品詞以上あり，語の品詞は語単独では決められず，文中の他の語との関係でわかる場合が多い。句についても同様である。

「私たちの家は明るい家庭です」 Ours is a happy home.《名詞》
「彼女の住所を知っていますか」 Do you know her home address?《形容詞》
「その出来事について家に手紙を書きました」 I wrote home about the incident.《副詞》
「机の上の本は私のです」 The book on the desk is mine.
《形容詞句として名詞 book を修飾》
「本を机に置きなさい」 Put the book on the desk.《副詞句として動詞 put を修飾》

12. 機能上の文の種類

1）平叙文（事実をそのまま述べる文）

「私はいいカメラを買いました」 I bought a nice camera.《S ＋ V》
(camera:[kǽm(ə)rɑ])

例文のように，V の後ろに O や C がくることがある。このことは以下の文型についても当てはまる。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

2）疑問文（物事を尋ねる文）（17 章）

（a）yes/no 疑問文（一般疑問文），（b）be 動詞のある yes/no 疑問文，（c）Wh- 疑問文（特殊疑問文），（d）Wh- 疑問文で主語の部分に疑問詞がくる場合。

「きみ，カメラ買った？」 Did you buy a camera?（a）《助動詞＋ S ＋ V》
《did you のカジュアルな発音は [dʒuː]》(buy, bought, bought)
「彼女はきみの妹さん？」 Is she your sister?（b）《be 動詞＋ S》
《your のカジュアルな発音は [jə]》
「何が欲しいの？」 What do you want?（c）《疑問詞＋助動詞＋ S ＋ V》
《what do you のカジュアルな発音は [wʌ́dəjə]》
「誰がこれを買ったの？」 Who bought this?（d）《S（疑問詞）＋ V》

注

平叙文の文型で，疑問文になるケースもよく見られ，文末のトーンが上がる。純粋な疑問文である Did you buy a camera? の文より You bought a camera? の方が‘確認’のニュアンス（「え！？　カメラを買ったのですか」）がさらに強くなる。

3）命令文（命令・要求や禁止を表す文）

主語の you は略され，動詞の原形から文を始める。否定文には Don't が加わる。

「彼に面と向かって言いなさい」 Say it to his face.
「これらの 2 つのことを混同しないように」 Don't mix up these two things.

4）感嘆文（驚き・喜び・希望など強い感情を表す文）

A）[What ＋ a(n) ＋（形容詞）＋名詞（＋ S ＋ V）!]

「（ここは）何て豪華な家なの！」 What a gorgeous house this is!

B）[How ＋形容詞 or 副詞（＋ S ＋ V）!]

「この家は何て豪華なの！」 How gorgeous this house is!

13. 直説法と仮定法

1）直説法

‘事実’として述べる動詞の形を直説法という。このタイプの動詞の形は，主語の人称や数，時制によって決まるケースが多い。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「ボブは本当に父親に似ています」 Bob really takes after his father. (Bob:[bɑ́b])
＊ take after「に似ている」

「トムは彼女を見送りに空港に行きました」 Tom went to the airport to see her off.
＊ see off「見送る」

「もしあなたが車を直せるならとてもうれしいわ」
I'll be very glad if you can fix the car. (glad:[glǽd])

2）仮定法

心の中で想定して述べる。話し手の仮想，想像，願望を表す。仮定法には，仮定法現在，仮定法過去，仮定法過去完了の 3 つある。

A）仮定法現在

動詞は原形である（動詞の前に should を入れても自然）。主に主節部分に‘仮想，想像，願望’をイメージさせる（a）名詞，（b）形容詞，（c）動詞が来て，従位節は that 節でその節内の動詞が命令形のように原形になる。

「私がアメリカに行くことが私の父の望みです」
It is my father's wish that I go to America.（a）
《to のカジュアルな発音は [tə]》

「彼女がすばやく行動することは必須です」
It is essential that she (should) act quickly.（b）(act:[ǽkt])
《従節の主語が she であるにもかかわらず，acts にならないで動詞の原形 act がきている》

「彼女は，彼がそのホームパーティーに招待されるべきだと言い張った」
She insisted that he (should) be invited to the house party.（c）
（× the home party）
《主節の動詞 insisted が，過去時制になっているにもかかわらず従節の be は原形のままである。また insist は，「強く要求する」という意味の可能性もある（他の例：I insist that you stay for dinner.「ぜひ夕食を食べていってね」）》

B）仮定法過去

be 動詞が were になる以外は，直説法の動詞の過去形と同じである。現在や未来の‘仮想’か‘事実と逆’のケース。

「今度の冬にアフリカに行くと仮定してみようか」
Let's suppose we went to Africa next winter.
《went の代わりに‘未来の仮想’were to go の方がよく使われる **237**-(5)-A)》

「もし俺（がきみ）だったら，それはやらないだろう」 If I were you, I wouldn't do it.
《現在の事実と逆》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

C）仮定法過去完了

動詞の形は直説法の過去完了と同じ。‘過去の出来事の事実と逆’を表す。

「それを知っていたら，私はそれを買わなかっただろう」
I wouldn't have bought it if I had known that.

注

If 節の動詞は実際の‘時’よりワン・ステップ古くなっている。下の（a）は‘未来’にもかかわらず動詞は buy で現在で（この場合の動詞の形は仮定法ではなく直説法），（b）は‘現在’にもかかわらず動詞は bought で過去で，（c）は‘過去’にもかかわらず動詞は hadn't bought で過去完了になっている。

「もし私がその車を買えば，彼女は半分払うだろう」
If I buy the car, (then) she will pay for half of it.（a）

「もし私がその車を買えば，彼女はその半分を払うだろうに」
If I bought the car, (then) she would pay for half of it.（b）

「もし私がその車を買わなかったら，この事故に巻き込まれなかったろうに」
If I hadn't bought the car, (then) I wouldn't have been in this accident.（c）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

第3章

名詞

［名詞①］

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

第3章 名詞

名詞は人，物，場所，一般的概念などの名前である（Tom，water，California，beauty）。名詞の種類は，数えられる名詞であるかどうかという区別（可算・不可算）と，意味上の区別（一般に使われている区別は，普通名詞，集合名詞，物質名詞，抽象名詞，固有名詞の５つ）がある。同じ名詞で可算になったり不可算になったり，普通名詞が物質名詞などに変化したりするので，注意が必要である（注２）。

注１

意味上からの名詞の区別〈個々の種類の名詞の詳しい説明は **16~22** を参照〉

普通名詞：一定の形や区切りがあり，名称は同じ種類のものに適用できる（house，knife）。
集合名詞：同種類のものの集合体（family，team）。
物質名詞：一定の形や区切りがないもの（light，sound，water）。
抽象名詞：抽象的概念の名（music，progress）。
固有名詞：特定の人，事物や場所などの名（Lincoln，Japan）。

注２

例えば，lemon は可算名詞（lemons と複数形にすることが可能）で普通名詞であるが，Put some lemon in the tea.のlemonは‘スライスされたレモン’で不可算で物質名詞となる。

「紅茶にレモンを入れて」 Put some lemon in the tea.

Part 1 冠詞と名詞の関係

名詞は単独で使われることはまれであり，冠詞などに修飾されて名詞句になる場合が多い。適切な名詞句を作るためには，日本語を母語とする英語学習者にとって最も誤りを犯しやすい文法事項の一つである冠詞を，より適切に使えるようにする必要がある。というわけで，名詞を扱う前にまず限定詞（限定詞は名詞の数や広がりを限定する語）の一種である冠詞の概略からこの章を始める〈さらなる冠詞についての説明は **70~74** を参照〉。

14. 5種類の冠詞

冠詞は，a/an と the であるが，これらの冠詞で重要な機能は a/an が名詞に対

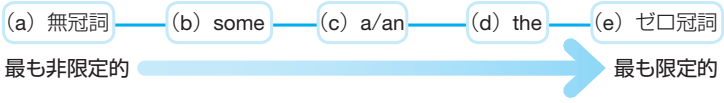
完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

して非限定的で，the が限定的である点である。例えば，Give me a stamp. と Give me the stamp. では，前者が特に指定されていない切手を指し，後者が聞き手にもわかる限定された切手を指す。

また，a/an はもともと one からの派生語で，不可算名詞（主に物質名詞と抽象名詞），そして可算名詞の複数形と一緒には使えない。

広義での冠詞は次の表の（a）から（e）の 5 種類ある。

表 1



「その少年はチキンを食べた」 The boy ate chicken. / The boy ate some chicken.
（a）（b）

「その少年はリンゴを 1 個食べた」 The boy ate an apple.（c）（注）
「その少年はそのチキンを食べた」 The boy ate the chicken.（d）
「フロリダは冬でも暖かくてよい」 Florida is nice and warm, even in winter.（e）
《nice and ＋形容詞は **55**-2)》

注

（c）で The boy ate a chicken. という言い方を避けたのは，少なからずのネイティブはこの文から，血が滴り落ちているような死んだ鶏にかぶりついた状態を想像するからである。

（d）定冠詞 the と（e）ゼロ冠詞はどちらも限定性が高い。両者の違いは，例えば場所に定冠詞のある the river road が，あまりなじみのない名前からよく使われる名前になる過程で，the が落ちて固有名詞 River Road になるという関係にある（River Road is near here.）。定冠詞のない Kennedy Airport，Central Park や Broadway などもゼロ冠詞であり，最大級に限定的・特定的である。

15. 冠詞の種類の選択

1）名詞の冠詞のとり方

冠詞の種類の選択は，主にセンテンスの前後関係（会話の周りの状況も含む）と名詞の種類による。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

表２

	可算名詞				不可算名詞
	普通名詞		固有名詞		物質名詞と抽象名詞
単／複	単数	複数	単数	複数	
限定	(1) the	(3) the	(5) ゼロ冠詞	(6) the	(7) the
非限定	(2) a/an	(4) some/ 無冠詞			(8) some/ 無冠詞

〈表２には集合名詞がない。集合名詞の多くは，可算名詞で冠詞のとり方は普通名詞と同じパターンであるが，一部（baggage〔手荷物〕，clothing〔衣類〕，furniture〔家具〕，mail〔メール〕，merchandise〔商品〕，poetry〔詩〕など）は，不可算名詞で物質名詞，抽象名詞と同じような扱いである〉

「私はその郵便局に行っていました」 I have been to the post office.（1）
「彼女は非常に素晴らしいバイオリニストです」 She is a great violinist.（2）
(violinist:[vàɪəlínɪst])

「そのフクロウを救おう！」 Save the owls!（3）
「私は今週，大学のテキストを何冊か買う必要があります」
I need to buy some college textbooks this week.（4）（注２）

「男の子はやっぱり男の子だ」 Boys will be boys.（4）
《この will は習性「～という性質」**111**-4)-C)》

「ユタは美しい景色に恵まれている」 Utah is blessed with beautiful scenery.（5）
「オランダは風車で有名です」 The Netherlands is famous for its windmills.（6）
《主語の名詞の形は複数形でも一国としては単数扱い》

「テーブルの上の水を飲んではダメだよ」
You shouldn't drink the water on the table.（7）

「あの植物は時々水が要る」 That plant needs some water once in a while.（8）
「水は生活には必須です」 Water is essential for life.（8）

注１

①表２の普通名詞の（1）で，the の代わりにゼロ冠詞がたまにくることがある。下の（c）の town はゼロ冠詞で限定性は一番高い。固有名詞に近く，話し手・聞き手の住んでいる町のニュアンスが感じられる。無冠詞とゼロ冠詞は，どちらも冠詞がなく表面上は同じように見えるが，両者は最も限定性が異なり，分けて考える必要がある。

「その竜巻は今日午後に中国のある町を襲った」
The tornado hit a town in China this afternoon.（a）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「竜巻が今日午後にこの町を襲った」 A tornado hit the town this afternoon.（b）
A tornado hit town this afternoon.（c）

②また，ゼロ冠詞は限定性が一番高いと書いたが，時間区分を表す May，September などは唯一性が高く固有名詞で，winter は普通名詞であるが，同じように限定性・唯一性が高いので固有名詞のように the をとらないケースがあると考えられる。lunch も同様に時間区分に入れて考えることができる〈**72**-3），4），6）〉。

「ここは冬は雪がめったにふらない」 It rarely snows here in (the) winter.
「ランチはとても楽しかった」 (The) lunch was quite enjoyable.

③ついでに述べれば，時間区分でも morning，afternoon，evening などは冠詞を伴うケースが多い（a perfect morning，in the morning，in the afternoon，in the evening）。例外のケースは at noon，at night など。

「金星を観察するには最高の朝でした」
It was a perfect morning to observe Venus.
「朝，私たちは公園へ行きます」 In the morning, we'll go to the park.
「私は夜 10 時以降には外出ができない」 I can't go out after ten in the evening.

ちなみに，morning は午前零時から正午または昼食時まで，afternoon は午後零時から日没または夕食時まで，evening は日没または夕食時から就寝時までを指す。night は day とペアをなし，外が暗ければ night で明るければ day を使う（a day には「1 日」の意味もある）。つまり night は evening より長く続き，かなりの部分 morning と重なっている。

注 2

一般に some は否定文では any になる〈**67**-1）〉。

「私はその本屋でノートを買いました」 I bought some notebooks at the bookstore.
「私は本は全然買っていません」 I haven't bought any books.

2）名詞の限定性とその数と種類の関係

名詞の限定性（限定・非限定）と名詞の数（可算・不可算）と名詞の意味上の種類（普通名詞や固有名詞など）との関係について以下に述べる（ここでは単に一般論的な言及である。この章の最初のところで書いたように，名詞を意味上から 5 種類に分類するのは便宜的なもので，実際は例えば固有名詞であっても集合的に使われたり，普通名詞化したりするケースもある）。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

A）名詞が限定的なケース

（1）表 2 でわかるように，固有名詞は本来的に限定的であり，非限定用法はない。そして通例（a）単数であればゼロ冠詞，（b）複数か（c）固有名詞に修飾要素があれば the を使う〈**22**-3）にも同様の記述がある〉。

「私は先週末東京に行きました」 I went to Tokyo last weekend.（a）（Tokyo:[tóukiòu]）
「私は 2008 年の夏に 21 人のボランティアと共にフィリピンに行きました」
In the summer of 2008, I went to the Philippines with twenty-one volunteers.（b）《2008 は '08 と簡略化ができ，その場合の読み方は oh eight》
「生きた英語を習うためにアメリカに来ました」
I came to the United States to learn everyday English.（c）

（2）その他の名詞である，（a）普通名詞，（b）集合名詞，（c）物質名詞，（d）抽象名詞は限定的にも非限定的にもなり得る。その限定性は定冠詞 the によって示すことができ，the は単・複，可算・不可算の区別なく使える（the 以外に，that といったさらに限定性の高い他の限定詞を使うことも状況次第ではもちろん可能である）。

「机の上のラジオはクリスティンのです」 The radio on the desk is Kristen's.（a）
「彼はそのチームに入りました」 He joined the team.（b）
「その岩の形はとっても面白い」 The shape of the rock is very funny.（c）
（rock:[rák]）
cf.「滑稽な仕草をする」make funny gestures
「私は母のアドバイスどおりに行動しました」
I acted according to the advice my mother gave me.（d）
《advice [ədváɪs] 名詞 , advise [ədváɪz] 動詞》
cf.「私に対する母と父のアドバイスは異なっていた」
My mom advised me one way, my dad the other.
《このセンテンスの後半の文型は **207**-8）-E）参照》

B）名詞が非限定のケース

（1）可算名詞である普通名詞と大部分の集合名詞は，単数であれば（a）a/an を，複数名詞は（b）some か（c）無冠詞をとる。

「私のバッグにオレンジが 1 個ある」 I have an orange in my bag.（a）（bag:[bǽg]）
「彼は面倒を見なければならない大勢の家族がいます」
He has a large family to care for.（a）
「私のバッグにオレンジがある」 I have some oranges in my bag.（b）
《some が付くことに関しては注 3 の①》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「ある家庭は何でも簡単に話せる」 Some families talk easily about anything.（b）
「オレンジは甘くジューシーな果物だ」 Oranges are a sweet, juicy fruit.（c）
《fruit の注意点に関しては **19** 注 1》

（2）一方，不可算名詞である（a）物質名詞と（b）抽象名詞は単複の別がないので，不定冠詞の単数を示す a/an はとらず，その非限定性は some か無冠詞で表す。

「私は新鮮な空気が必要だ」 I need (some) fresh air.（a）
《need fresh air とはあまり言わない》
「あなたにアドバイスをあげましょう」 I'll give you (some) advice.（b）

注 3

①どちらかというと，I have oranges in my bag. は書き言葉ではあまり使われない。限定詞（この場合は some）のない名詞句にいくぶん抵抗を感じるからであろう。下にも他の例を挙げておく。

「その少年はいくつかのリンゴを食べた」 The boy ate some apples.

②上の例文は，some の有無でそれほど意味に変化はないが，無冠詞と some で意味的に変化が出るケースもある。下の例文の前者は「ある girls」で，後者は「girls 全体」に関する一般論である。

「近頃，一部の女の子は男の子のように振舞う」 Nowadays some girls act like boys.
「近頃，女の子は男の子のように振舞う」 Nowadays girls act like boys.

注 4

集合名詞で国民を表す場合の複数形の注意（表 2 の（3）は普通名詞の記述であるが，国民を表す集合名詞にも当てはまる）。

（1）語尾の発音が [n] で終われば，s を付ける：
the Americans，the Germans，the Canadians

（2）語尾の発音が [z] や [ʃ][tʃ] などで終われば，s は付けない：
the Chinese，the Japanese，the Spanish，the Dutch

「米国人と英国人は外交的解決を望んでいない」
(The) Americans and (the) British don't want a diplomatic solution.

注 5

白人，黒人，黄色人種といった日本語の使い分けと英語の使い分けは感覚がいくぶん違う。白人は，white people，whites，または Caucasians（Caucasian:[kɔːkéɪʒən]）で，黒人は black people，blacks。よりフォーマルには African Americans を使う。黄色人種は，yellow people ではなく Asians を使う（「アジア系アメリカ人」は Asian

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

Americans)。ラテンアメリカ系人は Latinos または Hispanics で，インディアンは Native Americans または American Indians である。

「黒人とヒスパニックはアメリカの人口のそれぞれ 14% と 15% いる」
African Americans and Hispanics account for 14 and 15 percent of the US population respectively.
(African:[ǽfrɪkn̩])《ちなみにアジア系はアメリカの人口の 5%》

「インディアンに関しては，多くの伝説がある」
There are many legends about (the) Native Americans.

Part 2　名詞の種類

16. 普通名詞とその総称用法

普通名詞は，一定の形や区切りを持っている。その‘名’は同じ種類のものに使える。総称とは，同じ種類の人や生物，物などに共通した名を表し，総称用法とは一般論的に述べる用法。「～というものはどれも」という意味を表し，3 つのパターンがある（表 2 も合わせて参照）。

「熊は非常に危険な動物です」
A bear is a very dangerous animal.（1）
Bears are very dangerous animals.（2）
The bear is a very dangerous animal.（3）

（1）は熊 1 匹を取り上げ，その特性を述べてそれを熊一般の特性の記述にしたもので使用量は少ない。ただし，特定の場所での熊の総称的記述は不可（× A bear is a very dangerous animal in this country.）。

（2）がより口語的で，一般的に用いられる。特定の場所での熊の総称的記述である Bears are very dangerous animals in this country. が可能。

（3）のパターンは文語的表現であり，the が付くことによって‘熊の性質’のような抽象的な名詞句になっている。つまり抽象名詞には複数形はないので，総称用法として The bears are very dangerous animals. というパターンは作れない《普通名詞に the が付いて抽象名詞になるケースは **18**-2)》。また，特定地域に関する表現である The bear is a very dangerous animal in this country. と言うことが可能である。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「熊はこの国では非常に危険な動物です」
Bears are very dangerous animals in this country.
The bear is a very dangerous animal in this country.

注 1

不可算名詞の総称用法は，無冠詞の 1 種類のみである。

「水は熱によって蒸気になる」 Water is turned into steam by heat.

注 2

①総称用法の（3）のパターンは，人のグループに使うと不自然になることがある（下の文の the doctor，the child を総称用法ではなく特定の対象と考えると自然な文となる）。

× The doctor is well paid.
× As the child grows, it develops a wider range of vocabulary.

②また，（3）のパターンの総称的記述は生物や誰が発明したかわかる発明品（the computer，the can opener）には当てはまるが，時代と共に発達してきたもの，例えば机や本や家などには当てはまらない。

× The book filled leisure time for many people.

「コンピューターは，芸術に革命をもたらした」
The computer has revolutionized art.《arts も可》
Computers have revolutionized art.

注 3

①次の crimes，grades は総称用法で一般論としての名詞で複数形が使われ，this と that は非総称用法で，具体的な単数の対象を表す。その対象が複数であればもちろん these，those となる。

「あのような犯罪はなくさなければならない」 Crimes like that must be eliminated.
「この成績であれば，あの学校への入学は心配する必要ないでしょう」
With grades like this, you probably don't need to worry about getting into that school.

cf.「（きみは）今のバージョンにアップグレードした方がいいよ」
You should upgrade to the current version.
《日本語の「グレードアップ」も upgrade》

②もう一例を挙げておく。次の文は，The weatherman（天気予報士）が具体的な対象を指し，それを一般論的に them で受けているケース。

「天気予報ではここ何日かはよい天気だって」
The weatherman said it'll be fine for the next several days.
—「私は彼らを決して信用しないわ」 —I never trust them.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

注 4

一般論的に述べる総称用法は，前述の‘熊’の例と下の‘国民’の例とでは異なり，下の文に違和感を感じるネイティブは多い。

× A Japanese is a good cook.
× The Japanese is a good cook.

the Japanese は総称用法的ではあるが，**19**-3）の［the ＋形容詞］にあるように，集合名詞で複数扱いになる《‘国民’は **15** 注 4 も参照》。

「日本人は料理が上手だ」 The Japanese are good cooks.

この The Japanese は，総称的意味合いから離れて使うこともできる。次の文の the Japanese は具体的に述べられた対象である。

「日本人は 1945 年にアメリカ人に敗北した」
The Japanese were defeated by the Americans in 1945.

17. 普通名詞の非総称用法

1）非総称的で特定的に述べるケース

総称的でないケースでも，**16** の（1）（2）（3）の‘熊’についてのと同じパターン（［a ＋名詞］，［複数名詞］，［the ＋名詞］の三つのパターン）を使って，一般論的にではなく，より特定的に述べるケースもある。

A）次の文は，表 2 の（2）のケースで，どのヒョウかは限定はされていないが，特定の動物園に属するヒョウであり，総称的なヒョウのことではない（注 1）。また，次に述べる B）と C）のヒョウも総称としてのヒョウではない。

「1 匹のヒョウが檻の中で寝ています」 A leopard is sleeping in the cage.
（leopard:[lépəd]）（sleep, slept, slept）

注 1

A leopard を特定の具体的な動物園名で修飾しても，この場合不定冠詞を定冠詞に代える必要はない（a leopard at the San Diego Zoo）。つまり，a を使うので非限定であるが，特定のヒョウであるということで，‘限定’と‘特定’の概念は異なることがわかる。さらに例を挙げると，次の英文の「ボーイフレンド」は，「父親が俳優である」というふうに‘特定化’はされているが，‘限定化’はされていないので the boyfriend とはならない。the を使えば，話し手・聞き手が知っている「例の」「ボーイフレンド」といった感じになる。

「私は父親が俳優のボーイフレンドがいます」
I have a boyfriend whose father is an actor.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

B）次の文は表２の（4）のケースで，複数のヒョウは限定されてないが，特定の動物園に属するヒョウである。

「ヒョウたちがその檻の中で寝ています」 Leopards are sleeping in the cage.

C）次の文は表２の（1）のケースで，限定されたヒョウである。

「そのヒョウはその檻の中で寝ています」 The leopard is sleeping in the cage.

D）次の文は表２の（3）のケースで，限定された複数のヒョウである。

「そのヒョウたちはその檻の中で寝ています」 The leopards are sleeping in the cage.

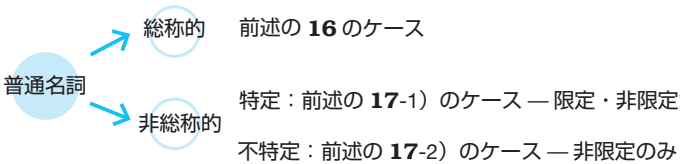
2）非総称的で不特定のケース

冠詞は（a）a/an,（b）some,（c）無冠詞が使われ，限定用法である the は使わない。

「椅子を１つ欲しいのですが」 I need a chair.（a）
「椅子をいくつか欲しいのですが」 I need (some) chairs.（b）（c）

以上の普通名詞の総称・非総称をまとめると表３になる。

表３



下記の例文のように，英文の解釈で表３の **17**-1）か **17**-2）で迷うケースもある。**17**-1）の解釈では‘具体的な特定の一人の弁護士’で，**17**-2）の解釈では‘不特定の弁護士’である。

「ジェーンは弁護士と結婚したがっています」 Jane wants to marry a lawyer.
（× marry to a lawyer）《「弁護士」はほかに an attorney がある》

注2 雑記

病気に関しては，冠詞のとり方はさまざまである。
（a）the flu（インフルエンザ），the plague（ペスト）
（b）a cold, a headache, a backache
《catch（a）cold のフレーズは無冠詞が一般的。ただし，cold に形容詞がつけば a bad cold のように不定冠詞がくる》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

(c) (the) mumps（おたふく風邪）, (the) measles（はしか）
(d) influenza, cancer, malaria

「彼はインフルエンザで寝ています」 He is in bed with the flu.（a）
「ひどい頭痛がします」 I have a bad headache.（b）
《I have のカジュアルな発音は [aɪəv]》

cf.「歯痛」a toothache,「胃痛」a stomachache
「はしかは一般に子供の病気だ」 Measles is generally a children's disease.（c）
「彼は胃癌だ」 He has stomach cancer.（d）《物質名詞で無冠詞》(cancer:[kǽnsər])

18. 普通名詞から他の種類の名詞への転用

1）普通名詞 → 集合名詞

普通名詞が集合名詞になるケース。下の例文のように，普通名詞の audience がその人々を表して集合名詞となる場合。

「観客はすでにその上演のために席についていた」
The audience were already in their seats for the performance.
（× on their seats）《performance は「演奏」も可》

上の例文では The audience was も可だが，下の文の The audience は明らかに‘一体’が想像でき，was を使う方が自然。

「その観客たちはうるさかった」 The audience was noisy.

2）普通名詞 → 抽象名詞

［the ＋普通名詞］で，その物や人の特性，機能といった抽象的概念を表すことができ，一般に文語的表現である。表 2 の（7）に当たる。

「ペンは剣よりも強し」 The pen is mightier than the sword.
（ペン・剣→文・武）(sword:[sɔ́ːrd])

「コンピューターの導入は授業活動を変化させた」
The introduction of the computer has changed class work.
（コンピューター → その機能）

「誰にでもまだどこか子供っぽいところがあるものです」
There is still something of the child in all of us.（子供 → 子供的性格）

cf.「彼女の性格は子供っぽい」 Her personality is childish.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

3）普通名詞 → 物質名詞

「赤ん坊の顔に卵が付いていた」 The baby had (some) egg on his face.

注

①下の television はいわば‘テレビ放送’の意味で不可算で表２の（8）となり，非限定の定冠詞抜きで使える（[the ＋普通名詞] → 抽象名詞で，The television ～も可 **16** 注２の②）。ただし，テレビ受像機の意味になれば可算となる。

「テレビは標準語の使用を広める役割を果たしてきた」
Television has played a part in spreading the use of standard speech.

「テレビの上に花を生けた花瓶があります」
There is a vase of flowers on the television (set).

②一般にテレビは無冠詞だが，ラジオは定冠詞のある場合が多い。

「テレビは何時間見ているの？」 How many hours do you spend watching TV?
「ラジオを何時間聴いているの？」
How many hours do you spend listening to the radio?
cf.「衛星（放送）テレビ」satellite TV,「ケーブルテレビ」cable TV

また，一般論として言えることであるが，冠詞の選択は与えられた状況による場合が多い。つまりニュースである新情報は a/an をとりやすく，旧情報（話し手も聞き手も知っている対象）は the がくることが多いということである。一つだけ文を取り出して，どういった冠詞をとるのかの分析にはおのずから限界がある。

また，上の「テレビ」と「ラジオ」の例のように，片方に定冠詞があり他の片方にはないという理由を探すのが難しいケースもあり，いつも冠詞の選択・有無についてロジカルに説明できるとは限らない。

19. 集合名詞

同じ種類の人々や物の集合体の名詞。

1）単・複の両方で使われるケース

すでに触れたように，集合体は通例単数扱い（a）で，その構成員からの視点では複数扱い（b）も可（audience, cabinet, class, committee, crew, crowd, hair, staff, team など）。（より詳しい‘名詞の数’に関しては **23~25**）

「彼女によると，彼女は家族が少ないそうだ」
She says that she has a small family.（a）

「私の家族は皆大変元気です」 My family are all very well.（b）（family:[fǽmɪli]）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

動詞は単数で受け，後に続く代名詞が複数になることがある。

「もしカップルがキスをしていないのなら，彼らは本当の親密な関係は持っていない」
If a couple is not kissing, then they are not having true intimacy.
《is の代わりに are も可》

「ご家族の皆さんはどうですか（お元気ですか）」 How's your family?
—「皆元気です」 —They're all fine.（△ We're all fine.）

注 1

① fruit は，果物一般については不可算名詞扱い。

「フルーツは好き？」 Do you like fruit?
「新鮮な果物は健康にいいんだよ」 Fresh fruit is good for your health.
《Fresh fruits are ~ を自然とするネイティブもいる》

②種類には普通名詞扱いで可算。

「彼女はバナナ，オレンジ，そしてほかの果物で器を一杯にした」
She heaped the dish with bananas, oranges, and other fruits.

料理を盛ってある皿が dish で，料理を盛り分けて食べるのに使うのが plate という使い分けがあるが，wash the dishes と言えるように，dish は plate も含めた‘皿全体’を指すことも多い。

③ちなみに，vegetable は可算で通例複数形で使われ，それにつられて fruit も fruits になることもよくある。

「たくさんの新鮮な果物と野菜を食べるのも大切だ」
Eating plenty of fresh fruits and vegetables is also important.

2）単・複両方に使われる場合以外のケース

（a）常に複数扱いの集合名詞に police, people（→注 2），cattle（牛）などがあり，（b）常に不可算の集合名詞に furniture（家具，furnishing は可算），baggage（手荷物，bag や suitcase は可算），poetry（poem は可算），mail（letter は可算），merchandise（製品，product は可算）などがあり，（a）と（b）のどちらも不定冠詞の a/an は使わない。（b）は，量を表すのに不可算名詞に付ける much（この much は通例否定文と疑問文に使われ，肯定文は a lot of）や，個別化するときに使う a piece of などを使い，物質名詞的な扱いである。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「彼がケリーを殺した張本人 だと，警察は確信している」
The police are pretty sure that he was the one who killed Kelly.（a）
《was を is に変えても視点の違いのみで実質的意味は同じ》

cf.「一人の警官はその犯人を追っている」 A policeman is after the criminal.
《A police officer またはよりカジュアルには a cop も可》（cop:[kɑ́p]）

「私たちはたくさんの家具を買いました」 We have bought a lot of furniture.（b）
《of のカジュアルな発音は [ə]》

cf.「私たちはたくさんの家具は買わなかった」 We haven't bought much furniture.
cf.「私たちは家具を 2 つ買った」 We (have) bought two pieces of furniture.
cf.「これらの美しい家具はマギー・オルソンの手によるものです」
The beautiful furnishings are by Maggie Olson.

「彼女は手荷物は多くはなかった」 She didn't have much baggage with her.（b）

cf.「アイリーンはスーツケース 2 つ持ってすでに出発していた」
Irene had already set off carrying two suitcases.《carrying 以下の句は **96**》

「彼は 1937 年に詩集の第 1 巻を出版しました」
He published his first volume of poetry in 1937.（b）

cf.「アリスのお母さんであるクレアは，アリスに捧げる詩集を書いた」
Her mother Clare wrote a book of poems in tribute to Alice.

「今朝，たくさん郵便物が来ました」 I had a lot of mail this morning.（b）
cf.「今朝，たくさん手紙が来ました」 I got a lot of letters this morning.（注 3）

「これら全てのカテゴリーから商品を選ぶことができます」
You can choose merchandise from all of these categories.（b）

cf.「どうしてタバコ産業はまだ製品の宣伝ができているわけ？」
Why can the tobacco industry still advertise their products?
(tobacco:[təbǽkoʊ])

注 2

people は，「国民」の意味で使われるときは単数扱いで，複数形は peoples。

「タイ人は社交的な国民だ」 The Thai are a sociable people.
「アジアには多くの国民がいる」 Asia is the home of many peoples.
《Asia の発音は [éɪʒə] または [éɪʃə]》《「人々」の意味であれば many people も可》

注 3

① letter は可算名詞で，mail は不可算名詞。e-mail は可算の扱いが見られるが，不可算扱いが一般的。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

②また，got は have の代わりに使われることがあるので注意。つまり，have ＝ have got ＝ got のケース（You('ve) got mail.「あなたにメールがあります」）。

「私は今日，E メールを受け取りました」 I got e-mail today.
「私は今日，2 通の E メールを受け取りました」 I got two e-mails today.
《可算の two e-mail messages も可》

3）the ＋形容詞＝集合名詞

一般に複数扱いで，形容詞は分詞からの形容詞でも可（the aged，the dying）（さらなる詳細は **54**）。

「カーニバルは貧しい人々にお金持ちたちと交わる機会を与える／機会となる」
A carnival gives the poor a chance to mingle with the rich.
「お年寄りは高齢であることにより，特別に必要とするものがある」
The aged have special needs that arise because they are aged.
《前者の aged は名詞的で，発音は [éɪdʒɪd]。後者の aged は形容詞で，発音は [éɪdʒd] である》

20. 物質名詞

いくら細分化しても性質が変わらない物の名前で，材料，金属，元素，液体，気体，飲・食料品などである。

1）物質名詞の注意点

A）不可算名詞で，複数形はなく a/an も付けられない。

「鉄は熱いうちに打て」 Strike while the iron is hot.《iron に関しては注 4》
cf.「ニッケル」nickel [níkṭ]
「私たちは水なしでは生きていけない」 We cannot live without water.

B）すでに不可算の集合名詞のところでも一部触れてあるが，不定量の表し方は some，any，much，a great deal of，（a）little などを付ける。

「いくらかのお金は必要だ」 Some money is necessary.
「何年も彼はそこで大変な時間とエネルギーを費やしてきました」
Over the years he had spent a great deal of time and energy there.

2）部分詞

部分詞は事物の部分を表す。例えば，some of them の some が部分詞である〈部分詞を使った物質名詞の一定量の表し方は，**21** 注 4 参照。また，部分詞のさら

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

なる説明は **69**-2）参照〉。

「一言アドバイスしていい？」 You won't mind a word of advice?（× an advice）
「それは生活の一部になっています」 It's become a part of life.

注 1

25 注 3 の 2 種類の［A ＋ of ＋ B］の名詞句からいえば，部分詞のある［部分詞＋ of ＋名詞］の head noun（次の例では whisky で，a bottle of によって修飾されていて，直訳すれば「1 本のウイスキー」）は B になるケースが多い。

「彼はウイスキーを 1 本お土産に買いました」
He bought a bottle of whisky as a souvenir.

注2 雑記

米国で使われている度量衡についてここで触れておく。これを大まかにでも知らないと，リーディングやリスニングで数量を示されたとき，具体的にビジュアライズができなくなる。

1 inch	1 foot	1 yard	1 mile	1 acre	1 ounce
2.54 cm	30.48 cm	91.4 cm	1.609 km	4,047 m^2	28.35 g
1 pound	1 pint	1 gallon			
454 g	0.473 l	3.79 l			

°F (Fahrenheit): 0°C = 32°F で，°F = (°C × 1.8) + 32

「（気温は）（華氏）32 度です」 It's thirty-two degrees (Fahrenheit). [fǽrənhàɪt]
cf.「ゼロ度」 zero degrees Celsius/centigrade
《degrees と複数形であることに注意。また，centigrade の c は大文字にはしない》

「1 マイルは 1.6 キロメーターです」 A mile is equal to 1.6 kilometers.
(equal ↔ unequal) (kilometer:[kəlɑ́mətər])

cf.「0.8 キロメーター」0.8 kilometers
《これらも複数形であることに注意。.8 の読み方は point eight で，0 のないこのパターンも見られる。ちなみに 5/8 mile は five eighths of a mile》

「私は 5 フィート 7 インチです」 I'm 5', 7".《普通 five feet seven inches，または five feet seven と読む。口語では，five-foot-seven もよく使われている》

「どうして 1 フィートは 12 インチなんですか」
Why is a "foot" equal to 12 inches?

「1 パウンドは約 450 グラムです」 A pound is equal to about 450 grams.

「1 ガロンは 3.79 リットルです」 A gallon is equal to 3.79 liters.
(gallon:[gǽlən], liter:[líːtər])

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

3）物質名詞 → 普通名詞

この例は多い。物質名詞が，ある物質による製品や種類など，具体的に数えられる物を示すときは普通名詞扱いである。

stone → a stone（1 個の石）　　nickel → a nickel（5 セント貨）

注 3

①コーヒー 1 杯は，a coffee も普通に使われる。要するに a cup of coffee からの簡略化である。形容詞がきた場合も同じで，a good coffee が可。また，チョコレートも物質名詞であるが，同様にチョコレート 1 個（a chocolate）もあり得る。さらに，two packs of sugar は two sugars にもできる。

「それと，コーヒーを 2 つください」 And two coffees, please.

②また，物質名詞も種類に関しては可算になり得る。

cheese − a cheese (cheeses), wine − a wine (wines), tea − a tea (teas), food − a food (foods)

「ここはどのくらいの種類のコーヒーを売っているの？」
How many different coffees do they sell here?

「鮨は私の好きな食べ物の一つです」 Sushi is one of my favorite foods.

注 4

同じ単語で物質名詞，可算単数，可算複数の 3 つあり，意味がそれぞれ違うケースがある。

glass（ガラス），a glass（コップ），glasses（メガネ）
iron（鉄），an iron（アイロン），irons（〔ゴルフの〕アイアン） (iron:[áɪən])

21. 抽象名詞

抽象名詞は性質，動作，状態，一般概念を表す。

1）抽象名詞と冠詞

数の概念は当てはまらないので，不定冠詞 a/an や複数形はとらない。定冠詞 the や不定量を表す any，some，（a）little，much，no などが付くことがある。

「知は力なり」 Knowledge is power.
「彼はあまり経験がありません／経験が浅いのです」 He has not had much experience.
「幸せは感謝の心で生まれる」 Happiness involves gratitude.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

注 1

次の文のように，history が前置の形容詞に修飾された場合も無冠詞。history の後ろに of 句の修飾句がきた場合 the をとる。

「彼女はヨーロッパ史を勉強しています」 She's studying European history.
《または the history of Europe》

似たような例も挙げておく。

human evolution — the evolution of man（人類の進化）
Oriental Philosophy — the philosophy of the Orient（東洋哲学）

注2 雑記

抽象名詞

（1）抽象名詞の本来のタイプ：future，peace

（2）接尾語の添加による派生語
　a）形容詞から：economics，freedom，hardship，kindness
　b）動詞から：arrival，growth，omission，understanding
　c）名詞から：boyhood，friendship，slavery

（3）他品詞と同形のもの
　a）形容詞：cold，evil，good，red，right，wrong
　b）動詞：fear，fight，hope，love，rest，sleep，work

2）前置詞＋抽象名詞

A）前置詞＋抽象名詞＝形容詞句

a）名詞を修飾（限定用法）

「彼は非常に能力があり，型破りの性格の持ち主でした」
He was a person of great ability and extraordinary character.

b）形容詞に相当する補語（叙述用法で一般的）〈**60**-1）参照〉

上の a）のセンテンスの of 以下は，形容詞句なので前にある名詞を修飾でき，次の例文の of 以下も形容詞句なので補語になれる。

「その少年は年齢的に言って平均的な背の高さと体重です」
The boy is of normal height and weight for his age. (normal ↔ abnormal)

B）前置詞＋抽象名詞＝副詞句

「彼は根っからフレンドリーで寛大です」 He is by nature friendly and generous.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「彼らはイタリア語を流暢に話したり読んだりしました」
They spoke and read in Italian with great fluency.

3）the ＋形容詞＝抽象名詞

「ここは，古いものと新しいものが調和して共存しています」
Here the old and the new exist side by side in harmony.
《Here old and new exist side-by-side in harmony. も可》
《old and new の句の the の省略に関しては **73**-3）。また，［the ＋形容詞＝集合名詞］のケースは **19**-3》

cf.「暴力的気性は平和への愛とは共存できない」
A violent temper cannot co-exist with a love of peace.

「不可能なことを私に頼まないで」 Don't ask me to do the impossible.
cf.「彼は頼もしい人です」 He is reliable/trustworthy. (trustworthy ↔ untrustworthy)

4）抽象名詞を使った有用表現

「私たちは小型機が山の周りを飛んでいるのを見かけました」
We caught sight of a small plane circling the mountain.

「あなたは善悪の区別をわきまえなくてはいけませんよ」
You have to know good from evil.

「体に気をつけないといけませんよ」 You must take care of yourself.

「いろいろな意味で，50 年代初めから我々は進歩しました」
In many ways we've made progress since the early fifties.
(the early fifties = the early 50s)

「キムが産んだのは誰の子であるのかさえ私にはわかりません」
I don't even know whose child Kim gave birth to.

「彼は悪いことをするために医者としての地位を利用した」
He took advantage of his position as a doctor to commit a crime.
(doctor:[dɑ́ktə̀])

「生兵法は大けがのもと」 A little knowledge is a dangerous thing.

5）抽象名詞 → 普通名詞

形容詞，動詞からの抽象名詞は，状況がより具体的（抽象名詞の前に形容詞が付く場合特に）であればあるほど，インフォーマルであればあるほど，この例が多くなる。

a great success（大成功）《具体的事例》，an authority（権力者）《具体的な人》，the works of Shakespeare（シェークスピアの作品）《作品》，a pleasant surprise（う

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

れしい驚き），a death（死），a failure（失敗），a disappointment（失望），a rare delicacy（珍味）など。

「彼女はとってもきれいだね」 She is a great beauty.
「彼女は私に親切なことをたくさんしてくれました」 She did me many kindnesses.
《many favors の方が一般的》

「人生は驚きに満ちている」 Life is full of surprises.

「海外で生活したとき，自分が日本人であることを改めて感じました」
When I was living overseas, I gained a new awareness of being Japanese.

cf.「海外放送」foreign broadcasts，「海外事情」foreign affairs，「海外市場」foreign/international market，「海外貿易」foreign trade，「海外旅行」foreign travel

「彼女には多くの困難なことがありました」 She('s) had many difficulties.
《a lot of difficulties も可》

「サービスが求められなければ，それは必要がないと考えられた」
Without a demand for services, no services were thought to be necessary.

「優先するものとして上からどれを選びますか」
Which one of the above would you choose as a priority?
(choose, chose, chosen)

「その男は普通の背丈でした」 The man was of a normal height.
「彼女は幸せな結婚生活を送りました」 She had a happy marriage.
「それがきみの非常に大きな強みとなるのです」 It gives you a huge advantage.
《a huge advantage の代わりに a great advantage も可》

注 3

①次の文の work は不可算の抽象名詞であるが，job と task は可算の普通名詞である。

「私はやらなくてはならない仕事がたくさんあります」 I have a lot of work to do.
「あなたのための職はたくさんあるよ」 There are many jobs available to you.
(job:[dʒɑ́b])
「非常に難しい職務がたくさんあります」 There are a lot of tasks that are very difficult.

似た例：可算 — 不可算
a laugh — laughter，a bill/coin — money，a permit — permission，
a machine — machinery，a garment — clothing

「笑いは最良の薬なり」 Laughter is the best medicine.
「きみ，この許可を取っていなかったんじゃないの？」
You didn't get a permit for this, did you?《get permission も可》
「この機械は時間を大幅に節約します」 These machines save a lot of time.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

② clothing は集合名詞的で不可算（衣類 1 点は an article of clothing）。

「野外服を着ることをお勧めします」 Outdoor clothing is recommended.

cloth は一般に「布地」で不可算。可算としては 2 種類の複数形（cloths「布，ふきん」と clothes「服」）がある。

「布はヤード単位で売られています」 Cloth is sold by the yard.
《yard に the がくることに関しては **71**-6）》

「これらの布は宝石に使用してはいけません」
These cloths should not be used on gemstones. (cloths:[klɔ́:θs])

「彼女は服をたくさん持っています」 She has many clothes. [klóu(ð)z]

clothing と clothes は‘身につけるもの全て’で，時に帽子や靴も含む（靴は closet の中に置かれるケースが多い）。

clothe([klóuð]) は「（服を）着る」で動詞であるが，dress を使う方が一般的。また，「着ている」の動詞は wear を使い，「身に着ける」は put on。

「ジムは T シャツとジーンズを着て，テニスシューズを履いていました」
Jim was wearing a t-shirt, jeans, and tennis shoes.

「ジャケットを着なさい」 Put on your jacket.
《jacket と coat は「背広の上着」の意味もある。上下揃いであれば suit で，下はズボン以外にスカートも可》

6）抽象名詞 → 集合名詞

「イギリスの若者は決して楽観主義者ではありません」
(The) British youth is/are by no means optimistic. ＊by no means「決して～ない」

7）抽象名詞 → 物質名詞

物質名詞のように，部分詞（事物の部分を表す）をつけて固体化できる。

「あなたたちご両人を，かなりビックリさせるニュースが一つあります」
I have a piece of news that will surprise you both very much.
《a piece of news はフォーマルで (some) news の方が一般的》(news:[n(j)ú:z])

「国防長官は我々に対してもう一つの情報を持っていた」
The Secretary of Defense had another item/piece of information for us.

8）抽象名詞 → 固有名詞

擬人化による。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「運命の女神が彼に微笑んだ」 Fortune has smiled on him.
「運がついてないな」 Fate is against me.

注 4

ここで名詞の種類にかかわらず，部分詞のある名詞句をまとめる。

①**正確な量を表す**：a gallon of gas, two cups of sugar, a yard of cloth, an acre of land, two pounds of apples

料理表現は of の略されたものも可（料理ブックの調理法のリストなどで見られる）。
one pound flour (= 1 lb flour)，2 cups sugar，2 lbs butter など。

「四分の一パウンドのバターを溶かし，火から下して 1 パウンドの小麦粉に混ぜなさい」
Melt one quarter pound butter; remove from stove, stir in one pound flour.

cf.「動かせる」removable

②**入れ物を基に**：a cup of coffee, a glass of water, a bottle of beer, two bottles of oil, a jar of jam
-ful のつくもの：a spoonful of sugar, a mouthful of food, a bagful of chips, a houseful of company（家いっぱいの人）

③**切り離された部分**：a slice of bread, a piece of paper/wood/chalk, a grain of rice, a speck of dust, two lumps of sugar, three servings of ice cream

④**抽象名詞や不可算の集合名詞に**：a word of advice, two pieces of baggage, two articles of clothing

⑤**部分または断片**：a part of life, two portions of the budget, half/all of that piece

⑥**形**：a ball of yarn, a column of smoke, two streams of water, two sticks of butter

⑦**ペア**：a pair of scissors, two pairs of trousers/pants《その他の例は **24** 参照》

⑧**その他** — 可算名詞で

単数名詞：a section of a newspaper, a page of a book
複数名詞：a (large) crowd of people, a series of lectures, a bunch of flowers, a deck of cards

「私たちが会った最初の夜，彼は私に花を 1 束くれました」
The first night we met, he gave me a bunch of flowers.
(= a bouquet of flowers) [bu:kéɪ]

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

a bunch of ～は,「ひと束の～」以外にカジュアル表現で「たくさんの～」の意味にもなる。

> *cf.*「たくさんの人」a bunch of people,「多くのトラブル」a bunch of trouble,「たくさんの食べ物」a bunch of food
> 《強調語は whole を使う：a whole bunch of food）
>
> *cf.*「1 束の手紙」a bundle of letters

また，copy of を使い，a copy of the book/magazine/pamphlet といった表現がよく使われる。

> 「パンフレットを 1 冊送ってくださいませんか」
> Could you send me a (copy of the) pamphlet? (pamphlet:[pǽmflət])
>
> 「この本は 100 万部売れた」 One million copies of the book were sold. (copy:[kápi])

22. 固有名詞

特定の人，物，場所などの固有の名を表す。

1）固有名詞の注意点

A）常に大文字で書き始める。‘唯一性’により限定性が高く，ゼロ冠詞か次の 2）と 3）のように the が付くかのどちらかである。

> 「モーツアルトは 1756 年に生まれました」 Mozart was born in 1756.
> 「ノルウェーは今は寒いです」 Norway is cold now.

注 1

① father，mother などの短いバージョン dad，mom などは文中でも固有名詞のように大文字で書かれる例もたくさんある（そうでないケースももちろんある）。よりインフォーマルであることは確かであるが，単純に短いバージョンの方が子供言葉であるとも言えない。

> 「これは，前はお母さんとお父さんのものでした」 It used to be Mom and Dad's.
> 《Dad and Mom's とはあまり言わない》
>
> 「だから，おばあちゃんとおじいちゃんが私たちにすぐに家に帰らなければならないって言うのです」
> That's why Grandma and Grandpa say we have to leave (home) soon.
> (△ Grandpa and Grandma)

②日本語と英語では順序が逆のその他の例を以下に示す。

> *cf.*「需要と供給」supply and demand,「飲食物」food and drink,「前後に」back and forth,「左右」right and left,「売買」buying and selling,「新旧」old and new,「老いも若きも」young and old,「白黒」black and white

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

注 2

まれに固有名詞に形容詞が付くことがあるが，その場合は感情的色合いがつく。

「ちっちゃなヘザーが人形のように彼の横に座っていた」
Little Heather sat beside him like a doll.《was sitting も可》

「テーラーじいさんは落ち葉を掻き集めるのに助けを必要としている」
Old Mr. Taylor needs help raking his leaves.

「美しいイエローストーン国立公園に行って見るべきだわ」
You have to go and visit beautiful Yellowstone National Park.

cf.「可哀想なデイビッド」poor David,「明るい 4 月」sunny April

B）修飾語句によって限定されれば the を付ける。

「私の知っているナンシーは赤毛です」 The Nancy I know has red hair.

2）the ＋人名＋複数

「パーマー家の人々は先月カリフォルニアに引っ越しました」
The Palmers moved to California last month.
《moved out to California も可》(California:[kæ̀ləfɔ́:rnjə])

cf.「パーマー夫妻は先月カリフォルニアに引っ越しました」
Mr. and Mrs. Palmer moved to California last month.
《Palmer で s が付かない》(Mrs:[mísɪz])

注 3

アメリカは東部からかつてのフロンティアの地である西部へ引っ越す場合，move out to が可能である。また，北部へであれば move up to，南部へであれば move down to が可能である。

3）地名（国名）に the が付く場合

（a）［the ＋形容詞＋単数名詞］（the Red Sea など），（b）［the ＋固有名詞＋普通名詞］（the Tone River, the Atlantic Ocean など），（c）［the ＋名詞＋ of ＋固有名詞］（the District of Columbia, the Bank of Canada など），（d）［the ＋複数形名詞］（the Hawaiian Islands, the Philippines, the Alps など）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「中東の人々はショッピングが好きです」 People in the Middle East love shopping.（a）
「アルゼンチンで話されている言語はスペイン語です」
The language spoken in the Argentine Republic is Spanish.（b）
（the Argentine Republic = Argentina）
「メキシコ湾には多くの美しいビーチがあります」
The Gulf of Mexico has many beautiful beaches.（c）
「ロッキー山脈にいるみたい」 It's almost like being in the Rocky Mountains.（d）
「アメリカは資源を外国に頼っています」
The United States is resource-dependent.（d）

注 4

①一般論として，（1）より身近な地域の地理的名詞，（2）より範囲を明確に示せる地理的名詞はゼロ冠詞。ただし，これらも前述の 3）の（a），（b），（c），（d）のケースに当てはまる場合は the が付く。

（1）駅，学校，港，空港，公園，道，広場：
Tokyo Station，Harvard University，Pearl Harbor，JFK Airport，Central Park，Park Avenue，Times Square など

（2）国，郡，市，町，島，小さい湾，地域，湖，山：
China，Orange County，Chicago，Williamstown，Greenland，Tokyo Bay，Lake Michigan，Mt. Everest など

②ニューヨーク州との区別のため New York City（NYC）とする場合が多いが，前後関係でわかればニューヨーク市を New York とする場合もある。ちなみに Washington は西海岸にあるワシントン州で，アメリカの首都で東海岸近くにあるワシントン市は Washington DC（District of Columbia）である。

「ニューヨークに行ったことがありますか」 Have you ever been to New York City?

③ビルなどの建造物の名前には the が付く。

「私は，セントラルパーク，自由の女神，エンパイアステートビルを見て回りました」
I toured Central Park, the Statue of Liberty and the Empire State Building.

④さらに the が付くケースは（2）でないこと，つまりサイズが明確ではないことが目安となるが，砂漠，川，海，半島，大きい湾，海峡などがこれに当てはまる：
the Sahara (Desert)，the Mississippi (River)，the Pacific (Ocean)，the Malay Peninsula，the English Channel など

「彼女はまだ太平洋を見たことがなかった」 She'd never seen the Pacific (Ocean).
「あなたのボートでミシシッピー川からオナラスカ湖まで行けますよ」
You can travel in your boat from the Mississippi to Lake Onalaska.
《Mississippi だけだと「ミシシッピー州」》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

⑤地球は Earth と the earth の両方あるが，Earth の方は他の惑星 Venus，Mars（大文字で冠詞がない理由は，ギリシア神話の神々の名からきていて固有名詞だから）などに対応し，the earth は目に見える環境 the moon，the sun，the land，the sea，the sky，the world, the universeなどに対応している(the Earth, the Moon, the Sun も見られる)。

「その夜は雪が大地を覆い，月が出ていた」
Snow covered the earth, and the moon was out that night.

cf.「彼はすごく堅実的／地に足がついた人です」 He's very down-to-earth.
cf.「一体全体何をしているの？」 What on earth are you doing?
《実際の地球ではなく the がないケース》＊ on earth「一体全体」

理解度クイックチェック ☑

「空」the sky,「東京駅」Tokyo Station,「マレー半島」the Malay Peninsula,「月」the moon,「パールハーバー」Pearl Harbor,「JFK 空港」JFK Airport,「サハラ砂漠」the Sahara (Desert),「パークアベニュー」Park Avenue,「オレンジ郡」Orange County,「陸地」the land,「ミシガン湖」Lake Michigan,「エベレスト山」Mt. Everest,「コロラド川」the Colorado (River),「コロラド州」Colorado [kàlərǽdou],「太平洋」the Pacific (Ocean),「イギリス海峡」the English Channel,「太陽」the sun,「代々木公園」Yoyogi Park,「海」the sea,「宇宙」the universe,「ハーバード大学」Harvard University

4）固有名詞 → 普通名詞

an absolute Einstein（アインシュタインのような），a Mr. Davis（デイビスという人），a second Paris（第二のパリ），a genuine Van Gogh（ヴァン・ゴッホの作品），a new Ford（フォードの新製品）

「デイビスさんという方から，きみに電話があったよ」
There was a call for you from a Mr. Davis.

「その絵はピカソの本物だと判明した」 The painting turned out to be a genuine Picasso.

5）固有名詞 → 物質名詞

「彼は今ワーグナー（の曲）をかけたがっている」 He wants to put some Wagner on now.
「大学でシェークスピアをかなり読みました」 I read a lot of Shakespeare in college.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

Part 3　名詞の数

23. 単・複同形の名詞

1）群居性の魚や動物

群れをなして生活する deer，fish，salmon，sheep など。

「私は鮭を捕まえたことはありません」 I have never caught a salmon.《単数》
「鮭のような魚は淡水に卵を産みます」
Fish such as salmon lay their eggs in fresh water.《複数》
《魚の卵（の塊）は roe [róu] で，raw「生の」の発音は [rɔ́:]》

「大きな魚を 1 匹捕まえた」 I caught a big fish.《単数》
「魚は一般にうろこに覆われている」 Fish are usually covered with scales.《複数》

2）発音が [z]，[ʃ] などで終わる国民の名

Chinese, Japanese, Portuguese など〈**15** 注 4 も参照〉。

「中国人は成功に価値を置き，成功のために努力するよく働く国民だ」
The Chinese are (a) hard-working people who value and strive for success.（注）

cf.「国民性」national character,「国民的英雄」a national hero,「国の祝日」a national holiday,「その国の経済」the national economy

注

The Chinese are a hard-working people. と The Chinese are hard-working people. の people は，前者が「国民」で単数扱いで a が付き，後者は a person「人」の複数形 people なので単数を示す a は付かない。

また，前者のセンテンスの are を a がきているからといって is とすると不自然な文になる。このように，主語が複数で動詞がそれに対応するが，補語が複数にならず単数形がくるケースは珍しくない。

「ですので，コミュニケーションが優先されるのです」
That is why communications are a priority.

「デジカメは素晴らしい発明です」 Digital cameras are a great invention.

3）その他

(air)craft，means，percent，species など。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「初期の飛行機の一機がこの博物館で展示されています」
One of the original aircraft is on display at this museum.《複》

「私にとって，お金は目的を達成するための単なる手段なんです」
To me, money is merely a means to an end.《単》

「目標を達成するために，あらゆる可能な手段が使われてきました」
All possible means have been used to reach the goal.《複》

「今や元あった草原の 1 パーセント以下しか残っていません」
Less than one percent of original prairie now remains.《単》

「韓国の人口の 30 パーセントはクリスチャンです」
Thirty percent of the population of Korea is/are Christian.《複》
《Christian は形容詞にも名詞にもなり得る。つまり形容詞の場合 are Christian で，名詞扱いで複数形 are Christians も可》

「人類も自然の一部だ」 The human species is a part of nature.《単》
(× The human species are ~)

cf.「人類，人間」mankind，「全人類」all mankind

「自然界の多くの種が絶滅の危機に瀕している」
Many species are threatened in the wild.《複》
(≒ Many species are endangered in the wild.)

24. 常に複数形の名詞

対になっている衣類，器具で，数えるときは a pair of を使い，一対で一単位。a pair of gloves/pants/shoes/stockings，two pairs of glasses など。

「昨日の夜，手袋をなくしました」 I lost a pair of gloves last night.

「彼はメガネを取ってテーブルに置いた」
He took off his glasses and put them on the table.
《この例文のようなケースでは実際には his pair of glasses とはほとんど言わない》(glass:[glǽs])

「彼のズボンはアイロンがうまくかかっていない」 His pants are not well-ironed.
《このケースも，実際には his pair of pants を使うより，his pants の方が一般的》

-ings，-ables で終わる名詞は複数扱い。

「今年，彼女の稼ぎは（より）多くなっています」 Her earnings are higher this year.

「貴重品は全て金庫にあります」 All valuables are kept in the safe.

注

学問の名称は通常単数扱い（economics〔経済学〕，ethics〔倫理学〕，linguistics〔言語

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

学〕，mathematics〔数学〕，physics〔物理学〕，statistics〔統計学〕など)。

「高校生のとき，数学は私の一番得意な学科でした」
Mathematics was my best subject when I was a high school student.

statistics は‘統計資料’の意味では複数扱い。

「統計によると，この州では暴力犯罪は増加の傾向にあります」
Statistics show that violent crime is on the increase in this state.
(show, showed, showed/shown)

25. その他の複数形名詞の注意

1）複数形にするときの注意

A）-ch，-o，-s，-sh，-ss，-x で終わる語には -es を付ける：watch(es)，tomato(es)，lens(es)，brush(es)，kiss(es)，box(es) など。

「この地域ではトマトは温室で栽培されています」
Tomatoes are grown in greenhouses in this area.

ただし -o で終わる外来語と短縮形の語には -s を付ける：piano(s)，kilo(s)，photo(s)

「私は今日，マーケットでトマトを 10 キログラム買いました」
I bought ten kilos of tomatoes at the market today.

また，-ch，-che で終わる語でも [k] と発音される語には -s が付く：stomach(s)，ache(s)

B）子音 + y では，y が i になり，-es を付ける：baby → babies，lady → ladies

「人間では，新生児の約 50.25 パーセントが男の子です」
In humans, about 50.25% of babies born are boys.

ただし，母音 + y には -s を付けるのみ：boy(s)，day(s)，donkey(s)

C）その他：-f，-fe のパターン
a）loaf → loaves，wife → wives，scarf → scarves
b）cliff → cliffs，handkerchief → handkerchiefs

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「私は 2 つのパンと 1 ガロンのミルクを買いました」
I bought two loaves of bread and a gallon of milk.

2）複数形になるとき意味が変化するもの

airs「（特に女性の）気取った様子」，nerves「いらいら」「図太さ」，pains「苦労」，the armed forces「（一国の）軍隊」《個々の軍隊には単数形：the air force》，customs「税関」，the times「時代」など。

「気取る必要ないよ」 No need to put on airs.
「テレビのプロデューサーは鉄の神経とかなりのスタミナが要求されます」
Television producers need iron nerves and considerable stamina.
(stamina:[stǽmənə])

cf.「私は試験前にはいつも緊張します」 I always get nervous before an exam.
《before exams も可》

「彼は行儀が悪い」 He has no manners.（≒ He has bad manners.）(manner:[mǽnə])

cf.「彼女は非常に礼儀正しい人だ」 She is a very polite person.（polite ↔ impolite）

「彼女は美貌に恵まれている」 She is blessed with good looks.

「時代遅れだよ，アーサー。きみは流行に遅れてるよ」
You're behind the times, Arthur; you're old-fashioned.（↔ ahead of the times）

cf.「彼は史上最高のゴルファーだよ」 He's the greatest golfer of all time.
cf.「いつも飲む」drink all the time，「ときどき／たまに」at times，「その本を何度も読む」read the book many times
cf.「いつもシートベルトを締めててね」 Wear a seatbelt at all times.

3）その他の注意

A）文字や数字の複数形は原則 -s を加える。-'s も可。

「あなたの 7 は 1 のように見えるよ」 Your 7s look like 1s.

「前学期の成績は B が 2 つと A が 4 つでした」
I got two Bs and four As last semester.

「90 年代はモントリオールに住んでいました」
I lived in Montreal in the 1990s.（1990s ='90s）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

B）1 つの状態・動作に 2 つの物が必要な場合の複数形。

「私は彼の友だちです」 I am friends with him.
「私は彼女と握手をしました」 I shook hands with her. (hand:[hǽnd])
「私はそこへは列車を乗り換えるだけのために立ち寄りました」
I stopped there only to change trains. (≒ to transfer to another train)
「彼は隣の人と席を交換しました」 He exchanged seats with the next person.
「いえ，それは今の私の職業ではありません。私はそのときから仕事を変えました」
No, that's not my present job. I've changed jobs since then.

次の文のケースでは，it の代わりに them は不可。つまり exchange seats のように 2 人が 2 つの物を交換するわけではないので。

「サイズが合わなければ，交換していいですか」 If this doesn't fit, may I exchange it?

C）不規則な複数形は，child - children，foot - feet，goose - geese（ガチョウ），hypothesis - hypotheses（仮定，仮説），mouse - mice，phenomenon - phenomena（現象），tooth - teeth などがある。

「1 フィートは 12 インチで，1 ヤードは 3 フィートです」
There are twelve inches in one foot and three feet in one yard.

注 1

その他の例：alumnus - alumni（同窓生），analysis - analyses（分析），axis - axes（軸），bacterium - bacteria（バクテリア，細菌），cactus - cacti（サボテン），crisis - crises（危機），criterion - criteria（基準），curriculum - curricula（カリキュラム），diagnosis - diagnoses（診断，分析），fungus - fungi（菌類），ox - oxen（雄牛），parenthesis - parentheses（丸括弧），stimulus - stimuli（刺激），syllabus - syllabi（シラバス，時間割り），synthesis - syntheses（統合，合成），thesis - theses（学位論文，テーマ）

D）複数形の -s が，語尾に行かないケースは，mothers-in-law（しゅうとめ），editors-in-chief（編集責任者）などがある。

「少なくとも 2 人の通行人がその襲撃の間に殺された」
At least two passers-by were killed during the attack.

E）距離，お金，時間で（a）一つのまとまったユニットと考えれば単数扱いで，（b）個々に解釈すれば複数扱い。

「その仕事で 10 年は長すぎます」 Ten years is too long on/for the job.（a）
「彼が去ってから 10 年が経過しました」 Ten years have passed since he left.（b）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

F）数や部分を表す名詞（number，part，proportion その他）を使うときの注意。

「生徒数は増えてきています」 The number of students has been increasing.
《動詞の数は the number に対応》

「この決定には多くの理由がある」 There are a number of reasons for this decision.（注 3）
《動詞の数は reasons に対応》《for のカジュアルな発音は [fə]》

「友人のうち大半が墓に眠っています」
Of my companions, the greater part are in the grave.

「ごく一部の生徒は，そのテストがうまくいきませんでした」
A small proportion of students were unsuccessful in the exams/tests.

注 2

次の文の主語は one なので，動詞は has で受ける必要があるが，インフォーマルに動詞に近い名詞（この場合は girls）に合わせる例も聞かれる。つまり，口語では動詞に一番近い名詞が最も記憶に残りやすいからである。

One of the girls has/have it.（その女の子たちの 1 人がそれを持っています）

注 3

［名詞＋ of ＋名詞］のパターンは，ときに注意が必要である。the number of students と a number of reasons の head noun（修飾する方ではなく修飾される方で，名詞句の中心になる語）がどれかということを見極めることが重要で，それによって動詞が単数名詞に対応したものか複数名詞に対応したものかに関して正しい選択ができる。前者は，「生徒の数」で the number が head noun であり，後者は「多くの理由」で reasons が head noun であることがわかる。

head noun の見極めについて，他の例でも見てみる。（a）は，「飲んだ」のは「ボトル」ではなく「ワイン」（head noun）である。（b）では，「栓を抜いた」のは「ボトル」（head noun）であって「ワイン」ではない。

「私たちはボトルのワインを飲みました」 We drank our bottle of wine.（a）
(drank:[dræŋk])

「彼はそのワインの栓を抜きました」 He uncorked the bottle of wine.（b）
cf.「雑草を抜く」pull (out) the weeds，「朝食を抜く」skip breakfast，「ペットボトル」a plastic bottle

（a），（b）の文が答えになるような質問（上の答えに対する下の質問自体は，いくぶん不自然な響きがある）を作ってみれば，（a），（b）の文の内容がかなり異なっていることがわかる。

（a）’How much wine did we drink?

（b）’What did he uncork?

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

Part 4　名詞の格，その他

名詞の格は，文中の名詞（代名詞にもある）と他の語句との文法的な関係を表すための語形変化。主格・所有格・目的格がある。主格と目的格は同じ形。

26. 名詞の所有格

主として所有関係を表す。

1）'s か of 句か

原則として，(a) 生物を表す名詞には 's を付け，(b) 無生物を表す場合には of 句を用いるケースが多い。

「私は父の車で事故を起こしました」 I caused an accident with my father's car.（a）
（× by my father's car）（accident:[ǽksɪdənt]）

「このテーブルの脚は短すぎます」 The legs of this table are too short.（b）

上の原則は例外も多い（天体 – the earth's surface，地域 – our city's transportation，時間 – today's menu，施設 – the school's history，距離 – three miles' distance など多数）（注 1）。

「ここから公園まで歩いて 5 分の距離です」
It's a five minutes' walk from here to the park.

cf.「10 分のドライブ」a ten minutes' drive
《a five minutes' walk より a five-minute walk の方が一般的（同様の例：a two-hour wait, a three-year-old boy）。要するに後者の minute は形容詞的なので s が付かない》

また，物でもアクションが伴う場合は，生物を表す名詞のように 's が用いられる。

「電車の到着がアナウンスされた」 The train's arrival was announced.

注 1

-s で終わる複数名詞の所有格はアポストロフィ（'）を付けるのみである。不規則変化をする複数名詞には 's をつける。

「私はいずれオースティンに女学校と女性クリニックを建てたいと思っています」
I hope to build a girls' school and a women's clinic in Austin in the future.

注 2

アポストロフィーと s のある慣用表現

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「私はアイデアに窮しています」 I am at my wits'/wit's end for an idea.
「トラベラーズチェックを現金にしたいのですが」
I would like to cash a traveler's check.
「今日の午後，運転免許証を更新しなければなりません」
I've got to renew my driver's license this afternoon. (have got = have)
cf.「ペーパードライバー」a Sunday driver《英語ではあまり使わない表現》
cf.「一体全体何をしているの？」 What are you doing, for goodness(') sake?

2）所有格に続く名詞の省略

（a）前出の名詞の繰り返しを避けるケースと（b）慣用的省略〈the Johnson's (house)（注 3），the dentist's (office)，McDonald's (restaurant) [mǝkdɑ́nǝldz]，Bloomingdale's (department store)，St. Peter's (Cathedral) など〉。

「それは私の妹のです」 It's my sister's.（a）(my sister's car)
「私は歯医者に行くのが非常に怖かったのです」
I was very afraid to go to the dentist('s).（b）
《go の濁音につられ，そのすぐ後ろの to の発音はカジュアルには [dǝ] になる》
「マクドナルドは金色のアーチで有名です」
McDonald's is famous for having golden arches.（b）
《物質名詞からの gold の他に，-en を付ける golden の形容詞もあるが，とる名詞が異なる（例：golden hour, golden opportunity, gold coin, gold ring）》

注 3

個人の家は，ホストとゲストの関係のときのみ，省略が行われる。

「叔父の家で 1 週間過ごしました」 I spent a week at my uncle's (house).
「私の叔父の家はテニスコートとプールがあって，とても大きいの」
My uncle's house is very large, with a tennis court and a (swimming) pool.

3）[名詞の所有格＋名詞] vs [名詞＋ of ＋名詞]

[名詞の所有格＋名詞]（Elizabeth Taylor's eyes）が [名詞＋ of ＋名詞](the eyes of Elizabeth Taylor）にいつも書き換え可能なわけではなく，一応 3 つのルールがある。下の順序は (1) から (2) そして (3) で，その順序が崩れると不自然な句になりやすい。

(1) 人を表す名詞，または体の部分を表す名詞が先行する：Tom，actress，eye，leg
(2) 人を除く生物は（1）の名詞より後で，（3）の無生物を表す名詞より前：dog，cat
(3) 無生物を表す名詞が一番後ろ：cushion，table

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

Tom's (1) dog (2) はよいが the dog (2) of Tom (1) は不自然。 the actress's (1) hair (1) と the hair (1) of the actress (1) はどちらも可能である。the cat's (2) cushion (3) は自然で，the cushion (3) of the cat (2) は不自然。a leg (1) of the table (3) はよいが，a table's (3) leg (1) は不自然である（a table leg も可）。

ただし，名詞が discovery（動詞 discover より）のような他品詞からの派生語であれば例外となる：Columbus's discovery ― the discovery of Columbus（the discovery of Columbus's も可能であるが，'s のない方が一般的。Columbus's の -s's の発音の仕方は -ses と同じ）

注 4

二重所有格

上の the discovery of Columbus's は二重所有格と呼ばれる。A of B's の B の名詞は必ず限定の人がくる。逆に A には非限定の名詞句がくることが多い。

例：A）a good idea of Johnny's, B）a friend of hers, C）a cousin of my father's

A）と C）のように，所有代名詞でなく名詞が of 句にくるケースの 's はオプショナルだが，くる場合が多い。

4）所有格のその他の注意

A）［名詞＋ of ＋名詞］の名詞句のパターンは長くなっても一応可。

「適者生存の理論は，この砂漠では作用している」
The theory of survival of the fittest is at work in the desert.

B）[-'s] のタイプでも，短い名詞句のときは所有格を複数重ねることができる。

「ベンのお兄さんの車を買ったんだ」 I bought Ben's brother's car.

注 5

［名詞＋名詞］'s ＋名詞のケースがある。

「11 月に，私たちはボルチモアでのナンシーとジェイソンの結婚式に出席しました」
In November, we attended Nancy and Jason's wedding in Baltimore.

C）両方のパターンのある句もある。

「ミネソタ州知事の車の色は黒です」 The governor of Minnesota's car is black.
《Minnesota's governor's car is black. も可》
《「ミネソタの車の知事」では意味を成さないので，句形を正しく理解する必要がある》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

注 6

長い名詞句の場合，例えば many of the pages of the book より many of the book's pages のパターンの方がよりすっきりする。

「この本のページの多くは破れ，印があります」
Many of the book's pages are torn and marked.

27. 名詞の目的格

1）目的語，補語

「彼女は花の絵を描きました」 She drew a picture of some flowers.《動詞の目的語》
「彼女のおじいさんの写真が壁にかかっていました」
Her grandfather's picture was hanging on the wall.
《前置詞の目的語》《be ＋ hanging に関しては **128** 注 1 参照》

「彼らは素晴らしい親です」 They are excellent parents.《補語》

2）形容詞用法と副詞用法

A）形容詞に相当する用法

例えば，blue は色の‘名前’であり，色を‘形容’することもできる。その働きは文中の位置（働き）によって決まる。下の例は，（a）が形容詞的で，（b）が名詞的なケース。

「この鳥は深い青い色をしています」 The bird is deep blue.（a）
「私の好きな色は深い青です」 My favorite color is deep blue.（b）

B）副詞的に使われる用法

a）後ろの形容詞，副詞を修飾：five years older, two hours long, a size larger, 100 yards away

「彼は 30 分早く到着しました」 He arrived half an hour early.
《early の代わりに earlier は不可であるが，half an hour earlier than the appointed time は可》

「（店員が客に向かって）10 パーセント引きになります」
You get ten percent off.《You get a ten percent discount. も可》

「彼女は数ヤード先に止めている自分の車に向かった」
She moved towards her own car, parked a few yards away.《a few yards off も可》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

注

① toward または towards の代わりに to を使うと‘到着’が前提となる〈**159** 注参照〉。

②また，後半の意味は「数ヤード先に止めている」で，parking としそうであるが，parking は誤りである。Her own car was parked. からの parked で，［be ＋過去分詞の形容詞］で状態である「停車していた」を表すことができる。

③ a few (yards) は「数ヤード」の意味で使われることもある。もちろん，「2, 3 ヤード」と考えてもよい。次の a couple も同様。

「2軒／数軒が竜巻に破壊された」 A couple (of) houses were destroyed by the tornado.

b）動詞を修飾：副詞的名詞は（a）時間，（b）距離，（c）程度，（d）方法を表す。

「彼らはイタリアに 10 年間住んでいます」 They have lived in Italy (for) ten years.（a）
《for がある方が一般的。このタイプの前置詞の省略については **170**-1）参照》
「彼は長い道のりをこんなに短時間で来たのよ」
He's come a long way in such a short time.（b）(≒ He got/arrived here quickly.)
「彼は 200 パウンド以上あります」 He weighs over 200 pounds.（c）
「こんなふうにやって（ください）」 Do it this way.（d）
「航空便ならほとんど何でも送ることができるんですよ」
You can send virtually anything (by) airmail.（d）

28. 名詞の同格

名詞と名詞（句や節も含む）を並べ，格関係が同じで，後ろの名詞が前の名詞の説明として置かれる。

「赤い色は情熱のシンボルの一つです」 The color red is a symbol of passion.
cf.「赤い色は情熱のシンボルです」 The color red is the symbol for passion.
cf.「赤みがかった」reddish，「赤字になる」go into the red，「赤字だ」be in the red
(↔ be in the black)
cf.「紫色（の）」purple
cf.「しかし，それは真っ赤ではない，どちらかと言えば赤みがかった茶色だ」
But it isn't very red, more a reddish-brown.
cf.「緑がかった」greenish，「黄色がかった」yellowish
「私たちの化学の先生であるジョーンズ先生は，怒ったことがありません」
Mr. Jones, our chemistry teacher, never gets angry.
《Our chemistry teacher, Mr. Jones の順もあり得る》
「何だか宝くじに当りそうな気がするんだ」 I've got a hunch that I'll win the lottery.
(have got = have)

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

29. 名詞の性

1）男女の区別の方法

A）別の語を使う：nephew（甥）↔ niece（姪）

B）性を表す語を付け加える：girlfriend

C）-ess を付加（綴りの変化する語もある）：actor ↔ actress（注 1），waiter ↔ waitress（注 1）

D）その他：hero（注 1）↔ heroine，widow（未亡人）↔ widower（男やもめ），bride（新婦）↔ bridegroom（新郎）

E）性差別意識の高まりに伴って，よく使われつつある語：man → human，fireman → fire-fighter，housewife → homemaker，chairman → chair(person)

「ルースは地元の消費者組合の議長です」
Ruth is (the) chair of the local Consumer Association.
《chair に冠詞がこない場合がある理由は **73**-1）-A）参照》

注 1

① actor は性別に関係なく‘俳優’の意味で使われることもある。また，waiter，waitress の両方に server を使うこともある。

② hero は性別に関係なく‘モデルとなる人’（スポーツで活躍した人なども含まれる）に使われることがある。

「私の母は私のヒーローだ」 My mother is my hero.

③ guy は男性に使うが，複数 guys は男女にかかわらず使え，女性だけであっても可。

「やあ，みんな！」 Hi, guys!

④ man が驚き（「うわっ！」）で使われることがある。ということは女性に対しても使えるということ。

「うわっ。けんかはやめてくれよ」 Oh man. Please stop fighting. (fight, fought, fought)

2）擬人化された中性名詞

A）車や船などの乗り物や天候は女性扱いが可能（特に男性が使う）。

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「俺の新しいベンツ見てよ。すごいだろう！」
Look at my new Mercedes. Isn't she something! (Mercedes:[mərséɪdiz])

「素晴らしい船ですね！　何ていう名前ですか」
That's a lovely ship! What is she called?
《What is it called? も可》《ほかに無生物を she で受けるケースは注 3》

B）国名は政治，経済，文化的観点で女性扱いされることがある（いくぶん古い用法）。

「私は前々から中国と中国の人々，そして中国の文化に興味を持ってきました」
I have always been interested in China, her people and her culture.

注 2

2 つ以上の名詞が and で結ばれるケースで，意味に誤解を生じなければ冠詞は繰り返さない。つまり，次の例文では名詞句が［the + A + B］で the art and music となり，the art and the music とするといくぶん不自然になる。

他の例：the car and bicycle，the statues and paintings

「文化はその人々の美術や音楽に正に反映されています」
The culture is truly reflected in the art and music of the people.

注 3

その他，moon，sea，nature，peace も she で受けることがある。

「私は自然が好きだ。それはとても美しい」 I love nature. She is so beautiful.

C）複数形にすれば，he か she のどちらを使うかといった性差の別を考えずにすみ，そのため複数形表現が好まれることがよくある。

「必要なのは学習者と学習者のニーズに，よりはっきり焦点を絞ることです」
What is needed is a stronger focus on the learners and their needs.

注 4

一般に英語は複数形を好む傾向が顕著である。日本語は基本的に単・複の別がないので，英文でどうしてここに複数形を使うのかといぶからざるを得ない例が実に多い。それへの克服は，なるべく多くの例に触れて慣れるようにするほかはない（状況によって単数も可能のケースもある）。

「土日には学校はありません」 There is no school on Saturdays and Sundays.

「コミュニケーションギャップに関するあなたの経験をもっと知りたいのですが」
I would like to know more about your experiences with the communications gap.（/t/ + your または you're は [tʃə]）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「予算の不足で，バスの路線と回数が削減される可能性があります」
Lack of funds could cut bus routes, times. (route:[rú:t]or[ráʊt])

「彼は成功するために機転を利かせました」 He used his wits to get ahead.

「あなたは結論にすぐに飛びついてしまいますね」
You jump to conclusions too quickly.

「昔は，人々は輸送に馬車を使いました」
In former times, people used a horse and carriage for their transportation.

「彼の研究は非常に独創的です」 His studies are very original.

「そのスーパーの商品の値段は安いです」 Prices at the supermarket are low.

「結論を急がないでください」Don't jump to conclusions.
《a conclusion と単数にはしない》

「ここに目次があります」 Here's a table of contents.

「彼は上機嫌でしたが，ちょっと驚いていました」
He was in good spirits but a bit surprised.

「彼女の父親は，若いという理由で彼女の結婚計画に待ったをかけました」
Her father put a stop to her marriage plans because of her young age.
(her のカジュアルな発音は [ɚ])

「彼らは結婚問題について話して何時間も一緒に過ごした」
They spent hours together discussing their marital problems.

「おめでとう！」 Congratulations!

「見た目はあてにならない」 Appearances are deceptive.

「もっと頭を使え／知恵を絞れよ」 Use your brain(s)/head.
《head の方が一般的》

「何てことでしょう！」 Good Heavens!

「彼女は市の郊外に住んでいる」 She lives on the outskirts of the city.
《一般には suburbs は，商業地区と区別された郊外の住宅地域で，in the suburbs of the city も可。outskirts は都市から離れた周辺地区のイメージ》

cf.「私たちは郊外生活では新鮮な空気と豊かな緑を楽しんでいます」
We enjoy fresh air and abundant greenery in our suburban life.

「二人の関係は完全に冷めてしまったのです」
The relations between the two have cooled down to nothing.

「おたくの皆さんによろしく」 Best wishes to the folks at home.

「おたくの皆さんにどうかよろしく」 Send my warm regards to the folks at home.
(send, sent, sent)

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

30. 名詞の合成語のパターン

(1) 名詞＋名詞（注 1，2）：stone wall，baby blanket，flower shop，rainbow，bookstore
(2) 名詞＋動詞：homemade, rainfall（雨量，降雨），lip-read（読唇術）
(3) 名詞＋動詞 -er：baby-sitter, can opener, screwdriver（注 3）
(4) 形容詞＋名詞：greenhouse（温室），the White House
(5) 前置詞＋名詞：overload（積み過ぎ），underdog（負け犬），underworld（下層社会，悪の世界）
(6) 前置詞＋動詞：underestimate（過小評価），undercut（切り下げ），overstock（在庫過剰）
(7) 動詞＋接尾辞：makeup（化粧），breakdown（故障）

注 1

合成語は，一語の場合も二語に離れている場合も第一強勢は前の語にくる場合が多い：heart attack，seaweed

二語の結びつきがより弱い場合は必ず離れ，第一強勢は後ろの語にくる（例：glass bottle，leather jacket）。

以下に，〔名詞＋名詞〕のパターンの例を挙げておく。〔名詞＋名詞〕は，非常にプロダクティブであることが以下の一部の例でもわかる（これらのタイプは口語で使われるものは比較的少ない）。

business administration，business cards，business dealings，car accident，car door，car insurance，car key，car seat，car wash，Christmas dinner，Christmas cards，government control，government agencies，schoolbook，schoolchildren，school fee，school trip，sales points，sales tax，TV ads，TV cameras，TV channels，water bottle，water level

注 2

三つのパターンがある語もある：baby sitter，baby-sitter，babysitter

注 3

［形容詞＋動詞 -er］のパターンで，［動詞 -er］が普通名詞になるケース。

a good swimmer，an excellent manager，a fast walker，a poor sailor，a great fighter，a frequent visitor

「フォード婦人はすごいおしゃべりだ」 Mrs. Ford is a tremendous talker.
「日本人は魚をよく食べる人たちです」 The Japanese are great fish eaters.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

応用練習

「どんなデザートがありますか」 What kind of desserts do you have?

《dessert の発音は [dɪzə́:t] で，desert [dézət] とすると「砂漠」》

—「フルーツ，アイスクリーム，プリンです」 —We have fruit, ice cream and pudding.

cf.「サハラ砂漠は世界で一番大きい砂漠です」
The Sahara Desert is the largest desert in the world.

cf.「アイスキャンディー」a popsicle,「ソフトクリーム」soft (serve) ice cream,「シュークリーム」a cream puff,「ホットケーキ」a pancake

---

「昨日の夜，友人の一人とトランプをしました」 I played cards with a friend of mine last night.

《日本語の「トランプ」は英語では (playing) cards であり，複数形》

「彼には鋭い批評眼があり，好き嫌いの発言については尻込みしません」 He has a sharp critical eye and isn't shy about what he likes and dislikes.

《実際の目ではないので eye は単数形のみ可》

「あなたは音感がいいですね」 You have a good musical ear.

《このケースも ear と単数になっていることに注意》

「それは先生の落ち度ではなかったのです」 It was no fault of the teacher('s).

《カジュアルには 's は省略が可》

「私は自転車に乗るのが好きです」 I like to ride bikes.

《I like riding bikes. も可。不定詞と動名詞の両方を目的語としてとれる動詞は **191**-3) 参照》(ride, rode, ridden)

cf.「オートバイ」a motorcycle，a motorbike

「彼は日本の家具が好きなようです」 He seems to like Japanese furnishings.

《「家具」の意味の furnishings は常に複数の -s が付く。一方，furniture は不可算名詞で，「家具一点」は a piece of furniture》

cf.「私は家具付きの部屋を月 370 ドルで貸しています」
I rent out a furnished room for $370 per month.

cf.「それは快適に家具が備わっていた部屋でした」
It was a comfortably furnished room.

「彼はクラスの代表として，生徒会に出席しました」 He attended the student council as (a/the) class representative.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

《動詞 attend「出席する」は目的語をとるので，attend　to は不可〈似た動詞の例は，**92**-2）参照〉。a があるケースは‘代表が何人かいる内の一人’〈無冠詞の場合の説明は **73**-1）-B）参照〉》

「彼はまだ子供です」　He is only a child.

《「彼はまだ／ただの子供だ」の英訳で，a）He is only a child. はニュートラルな表現で，b）He is merely a child. は少し軽蔑的な表現。c）He is just a child. は少しポジティブな表現である。また，kid に関して書けば，He has two kids. はよいが，単数としての He has a kid. は軽蔑的な響きがいくぶん加わる。一般に単数であれば，He has a son/daughter. と言う方が自然である》

cf. 「ケビンはスーを誘拐して殺し，自殺したの？」
Did Kevin kidnap Sue and then kill her and himself?
《「誘拐する」の kidnap の対象は，子供だけとは限らない》

「庭の桜の花がきれいだ」　Cherry blossoms in the yard are pretty.
《草花は flowers でよいが，木の花は blossoms である。ちなみにアメリカでは桜の木はまれ》

「あれは造花ですか」　Are they artificial flowers?

「クラスに 3 人トムがいます」　We have three Toms in our class.
《固有名詞の複数形は -s を付けるだけである》

「（コインを投げて）裏か表か」　Heads or tails?
《or のカジュアルな発音は [ə] または [ɚ]》
（コイン投げは順番を決めるときなどに使われる。アメリカにはジャンケンもある）

「家族は皆元気です」　My family is/are all fine.
《fine の代わりに well も可》

《‘家族’は，普通は単数扱いであるが，‘家族’を成員の観点から見れば，複数扱いも可能である。上の例文では is の方が一般的》

「彼らは相性がよい／悪い」　They have good/bad chemistry.
《good chemistry は主に恋人同士に使う》

「彼は 2 年ほど前に仕事を変えました」　He changed jobs about two years ago.
《jobs と複数形になっている。似た例は **25**-3）-B）参照》

「50 点が英語の口述試験の合格ラインです」　Fifty points is the passing mark for the English dictation test.
《fifty points はひとかたまりとして考え，動詞は単数に対応する is を使う》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「12 年は 1 か所で働く場所としては十分長いですね」 Twelve years is long enough to work in one place.

《この年数もひとかたまりとして考え単数扱いである》

「スポーツは何をするの？」 What sports do you play?

—「え～と。何でもだよ。テニス，ゴルフ，水泳など」 —Well, I play any sport—tennis, golf, swimming, and so on.

《any sports も可 **67** 注 2》

《Well と Oh は，話題や気分を変えたり，注意を促す口上を切るときに使われる》

cf. 「やれやれ，やっと着いた」 Well, here we are at last.

(last:[lǽst])

cf. 「これはこれは！　きみにこんなところで出会うなんて思いもしなかったよ」
Well, well! I didn't expect to see you here.

cf. 「あっトム，それ取って」
Oh Tom, get it for me.

《sports は複数のスポーツ。また，スポーツでスコアの付かないものは動詞 play は使わない。ski，swim そのものが動詞として使える》

cf. 「きみはどのスポーツが一番好き？」 What sport do you like best?

《What の代わりに Which も可》

cf. 「週末の夜にスキーができますよ」 You can ski at night on weekends.

「スポーツウエアの売り場はどちらですか」 Where's the sportswear department?

《department の代わりに section も可。department は‘区切り’で，「デパート」は department store。また sportswear は，二語で sports wear と書く書き方もある》

「もう大丈夫だよ。さ，涙を拭いて」 You're all right now. Wipe your tears (away).

《tears が複数形であることに注意》

「出口はこちらです」 This is the way out.

「彼女は笑いをこらえようとした」 She tried to suppress her laughter.

(× her laughing)

「足元に気をつけてください」 Please watch your step.

《step の代わりに steps は不可。［限定詞（この場合 your）＋ step］でより抽象名詞に近くなる〈**18**-2）参照〉。具体的な step は可算名詞で単数形や複数形は可（take a step, twenty steps）》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

cf. 「私は早足で歩いた」I walked with rapid steps.

「小銭を持ってる？」	Do you have any small change (with you)?

《こういった場合，日本語の感覚では with you は余分な感じがするが，非常によく使われている》

「ジェイミーは美人で才女です」	Jamie has both beauty and brains.
「修士号を得るため大学に行きました」	I went to college (≒ a university) to earn my master's (degree).

《college は無冠詞で university は冠詞 a がくるのが正用法だと言われているが，university も college 同様，無冠詞で用いるネイティブもいる》

「（私たちは）不必要な出費は避けなくてはなりません」	We must avoid unnecessary expenditures/expenses.
「彼はよく英語のクラスをサボります」	He often skips his English class(es).

《his のカジュアルな発音は [ɪz]》

「順番に／交代でやろう」	Take turns at it.
「この件について何か質問はありますか」	Do you have any questions on/about the matter?
「冬もすぐそこまで来ています」	Winter is just around the corner.
「身長はどれぐらいですか」	How tall are you?
―「6 フィート 2 インチだよ」	—Six-foot-two (inches).

《アメリカの度量衡に関しては **20** 注 2 参照》

「お城へはここから車で 10 分ほどです」	The castle is only a ten-minute car ride from here.

《a ten-minute drive も可》

《ten-minute は，形容詞的に後の名詞を修飾しているので，ten-minutes というふうに複数形にはしない。six-foot-two も単数 foot が使われているのは同じ原理。ただし，six feet two も可》

cf. 「彼は（身長が）6 フィート 2 インチで（体重は）195 パウンドあります」
He is six feet two and 195 pounds.

「市内通話は 3 分で 35 セントでした」	Local calls were 35 cents for three minutes.

《単数 A local call was ~ . も可》（× 35 cents per three minutes）

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「朝ご飯は何を食べるの？」 What do you eat for breakfast?

—「ベーコン・エッグとシリアルまたはトースト。それと紅茶かコーヒー」 —We eat bacon and eggs with cereal or toast, plus either tea or coffee.

《可算名詞 egg が複数になっていることに注意》

「今度の日曜日に外でバーベキューパーティーをしようよ」 Let's have a barbecue party outdoors next Sunday.

《outdoors は副詞で，outdoor は形容詞》

cf. 「野外料理は暑い夏の日にとっても人気があります」
Outdoor cooking is very popular on hot summer days.

cf. 「月曜日」Monday，「火曜日」Tuesday，「水曜日」Wednesday，「木曜日」Thursday，「金曜日」Friday，「土曜日」Saturday

cf. 「1 月」January，「2 月」February，「3 月」March，「4 月」April，「5 月」May，「6 月」June，「7 月」July，「8 月」August，「9 月」September，「10 月」October，「11 月」November，「12 月」December

「私にうまくできると思う？」 Do you think that I can make it?

(make, made, made)

—「あなたの努力次第よ」 —It all depends on your effort(s).

《make it はほかに，「間に合う」「都合をつけることができる」の意味もある》

cf. 「急げば間に合うよ」You can make it if you hurry.

「何か私たち（お互い）違う世界に住んでいるような感じね」 I feel we live in different worlds.

(feel, felt, felt)

《world は普通一つなので複数形にならないが（通例 the world で，the が付く），例文では'他の世界' を感じることができる〈world は **22** 注 4 の⑤参照〉》

cf. 「この世の中は食うか食われるかの世界だ」This is a dog-eat-dog world.

「私はウイリアム・シェークスピアの全集を持っています」 I have the complete works of William Shakespeare.

《work は不可算だが，「作品」では可算となる》
（× the complete set of William Shakespeare）

「（私は）頭痛と熱があります」 I have a headache and a fever.

《病気の冠詞のとり方は **17** 注 2》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「タイムズをとって」 Please get me (a copy of) the Times.

《出版物には the が付くケースが多いが，下の雑誌名には the は付かない》

cf. 「タイム」TIME，「ニューズウィーク」Newsweek

「専攻は経済学です」 I'm an economics major.

「東京では物価はかなり高いです」 Prices are considerably higher in Tokyo.

「彼女の気分を害してしまったんだ」 I hurt her feelings.

《抽象名詞が普通名詞扱いの他のケースは **21**-5）参照》

—「彼女に謝っておいた？」 —Did you apologize to her?

《apologize は自動詞で，前置詞 to が必要》

cf. 「ジムは気分を害した」Jim's feelings got hurt.

cf. 「害のない／害のある」harmless/harmful

「彼女はダンスのレッスンを受けています」 She's taking dance/dancing lessons.

cf. 「これで彼女も懲りるだろう」This will teach her a lesson.

(teach, taught, taught)

cf. 「彼女は懲りないね」She doesn't learn a lesson.

「あなたの国は公害の問題はありますか」 Do you have pollution problems in your country?

cf. 「汚染されている水」contaminated water（↔ uncontaminated)

「玉ねぎを食べるくらいなら死んだ方がましだよ」 I'd rather die than eat onions.

('d = would)

《onions が複数形になっていることに注意。他の例：beans，grapes，raisins》

「大学を出てからの計画は？」 What are your plans after finishing college?

「修理費は少なくとも 100 ドルはかかります」 The repairs will cost at least $100.

(cost [kɔ́:st]) ($100 = a hundred dollars)

「キーウェストの郵便番号はどうすればわかりますか」 How can I find the ZIP code of Key West?

(find, found, found)《for Key West も可》

「歯医者で昨日，歯を抜いてもらいました」 I had a tooth pulled at the dentist's yesterday.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

《この dentist's に関しては，dentist's office の略なので 's は必要であるがインフォーマルに at the dentist も使われている〈**26**-2）参照〉》

「どうしたら英語の語彙を増やせるでしょうか」	How can I increase my English vocabulary?

《vocabulary は，具体的には可算で複数形になり得るが（develop rich vocabularies），例文では集合名詞的に不可算として使われている》

cf. 「彼は英語の語彙が豊富です」He has a large/wide vocabulary in English.

「犬が死んでから 5 年が経ちました」	Five years have passed since my dog died.
「(私が着ているのは)買ったばかりの服だよ」	I'm wearing brand-new clothes.
「彼はとても人を見る目があります」	He is a very good judge of character.
「彼は最悪のルームメートで，私に多くの迷惑をかけていました」	He was a very poor roommate, causing me a lot of trouble.
「いくつかの荷物はまだ着いていません」	Some of the baggage has/is yet to arrive.

《Some of the baggage hasn't arrived yet. の方が一般的》《baggage は不可算名詞で，似た例は **19**-2）参照。また，has/is yet to 不定詞は **80**-3)-B）参照》

「私が買った CD に傷が付いていたので，取り換えてもらいました」	The CD I bought had a scratch, so I exchanged it.
「カリフォルニアの青い空にかなう空はアメリカにはどこにもありません」	No other place in America can match California's blue skies.
「強風で飛行機は離陸できませんでした」	The strong winds prevented our plane from leaving.

《このコンテクストでは winds と複数形を使うのが一般的》

「おかげさまで，弊社はそれなりに利益は上がっています」	Fortunately, our company is making reasonable profits.

(reasonable ↔ unreasonable)《profit は具体的なケースでは可算名詞》

cf. 「最低賃金以下の給料は不当だ」Salary below minimum wage is unreasonable.

「これはアトランタオリンピックの記念切手です」	This is a commemorative stamp of the Atlanta Olympics.

(stamp:[stǽmp])

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

cf.「結婚記念日」wedding anniversary,「記念碑」a monument

「兄弟はいますか」	Do you have any brothers or sisters?
「演奏の前にオーケストラは楽器を調律した」	The orchestra tuned up their instruments before the performance.

《their は，orchestra の成員の視点から複数名詞で受けている例〈似た例文は **19**-1）にもある〉》

「彼女は元気がありません」	She's in low spirits.
「彼らの仲は険悪です」	They have a stormy relationship.
「倹約は美徳だ」	Thrift is a virtue.
「彼女は好感の持てる人でした」	She made a favorable impression on me.
「彼はあなたの親戚ですか」	Is he a relative of yours?

《is he のカジュアルな発音は [zi:]》

「彼は私の言葉を誤って解釈しました」	He took my words in the wrong way.

cf.「解釈次第でどちらにも取れる」It can be taken either way.

「その問題について私たちは活発な議論をしました」	We had a lively discussion on/about the subject.

cf.「活発な子」a lively child,「主観的意見」subjective opinions,「客観的意見」objective opinions

「彼女は記憶力がいいんです」	She has a good memory.

(↔ She has a bad memory.)《she has のカジュアルな発音は [ʃi:æz]》

cf.「どうも近頃，忘れっぽくなってきたんだ」Somehow, I've become forgetful recently.

cf.「物覚えが悪い人」be a poor learner

「月が地平線の上に昇った」	The moon rose above the horizon.
「新聞から記事を切り抜きました」	I clipped an article from a newspaper.

(newspaper:[n(j)ú:zpèɪpə-])《an article out of a newspaper も可》

「彼女は，涙で（喉が詰まったようになって）言葉が出ませんでした」	Tears choked her words.
「引退した多くの独身の人たちはクルーズ（遊覧の船旅）に出かけます」	Many retired single people go on cruises.

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「きみは地図を読めますか」	Can you read maps?
「症状としては，腹痛，頭痛，喉の痛みと疲労感が挙げられます」	Symptoms can include upset stomach, headache, sore throat and tiredness.
「人生には予測できないことがいっぱいあります」	Life is full of uncertainties.
「彼女は彼に微笑みかけるとき唇が震えるのを感じた」	She felt her lips tremble as she smiled at him.
「私は風邪をひいているときにいびきをかきます」	I snore when I get a cold.
「このピアノを動かすのに手を貸してください」	Please give me a hand to move this piano.

cf. 「彼女の言葉に心を動かされました」Her words moved/touched me.

cf. 「株価は毎日変動しています」Stock prices vary from day to day.

cf. 「健康のために運動する」get some exercise for *one's* health，「電気で動く」run/move/work on electricity，「コンセント」an outlet（コードの差し込みは a plug），「動かぬ証拠」indisputable evidence（indisputable ↔ disputable）

「彼はパーティーで彼女によそよそしい態度をとった」	He gave her the cold shoulder at the party.

＊ give *someone* the cold shoulder「～によそよそしい態度をとる，～を冷たくあしらう」

「警察は拳銃を捜すために，彼の家をくまなく探した」	The police went through his house to look for the gun.
「彼の妹さんの就職のために行なった彼の努力は全て，無駄になりました」	All his efforts to help his sister find a job came to nothing.
「私は眠りが浅いんです」	I'm a light sleeper.

cf. 「（川や知識などが）浅い」be shallow

「詩はさっぱりわからないよ」	I can't understand poetry at all.

cf. 「さっぱりした味付け」simple seasoning，「素朴な生活」a simple life

「このテキストの内容は多過ぎて私には消化できません」	The contents of this textbook are too much for me to digest.

《contents の -s に関しては **29** 注 4》

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

「服のセンスがいいですね」	You have good taste in clothes.
「彼はズボンとシャツ（またはワイシャツ）と靴を買いました」	He bought pants, shirts and shoes. 《pants は英語では「ズボン」》
「セールでたくさん服を買い過ぎました」	I bought too many dresses at the sale.

cf.「海外での売上が弱い」Overseas sales are weak.

cf.「スーツの特売」a sale on suits

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

米原 幸大（よねはら・こうだい）

セントラルミズリー大学（University of Central Missouri）TESOL（英語教授法）修士課程卒業。サウスカロライナ大学（University of South Carolina）言語学博士課程中退。コーネル大学（Cornell University）客員講師，トゥルーマン大学（Truman State University）講師などを経て，現在，Jアプローチ推進協会主宰（http://www.ivyleague-english.com/）。

〈著書〉『米国の日本語教育に学ぶ新英語教育』（大学教育出版〈単著〉2008.7），『【完全マスター】ナチュラル英会話教本』（語研〈共著〉2010.11），『TOEFL® テスト完全対策 & 模試』（ジャパンタイムズ〈共著〉2010.11）『Jアプローチ：4技能時代を先取りする凄い英語学習法』（IBC パブリッシング〈共著〉2015.7）

〈論文〉『アメリカの日本語教育に学ぶ理想的なティームティーチング』（「英語教育」大修館書店 2008.5）

【装丁】神田 昇和（かんだ・のりかず）

© Kodai Yonehara, 2009, Printed in Japan

【完全マスター】英文法

2009 年 6 月 10 日　初版第 1 刷発行
2018 年 1 月 30 日　第 5 刷発行

著　者　米原 幸大
制　作　ツディブックス株式会社
発行者　田中 稔
発行所　株式会社 語研
〒 101–0064
東京都千代田区神田猿楽町 2–7–17
電　話 03–3291–3986
ファクス 03–3291–6749
振替口座 00140–9–66728
組　版　ツディブックス株式会社
印刷・製本　倉敷印刷株式会社

ISBN978-4-87615-192-9 C0082
書名　カンゼンマスター エイブンポウ
著者　ヨネハラ コウダイ
著作者および発行者の許可なく転載・複製することを禁じます。

定価はカバーに表示してあります。
乱丁本，落丁本はお取り替えいたします。

株式会社語研
語研ホームページ http://www.goken-net.co.jp/

本書の感想は
スマホから ↓

完全マスター英文法 ためし読み → Webページへ

完全マスター英文法

ためし読みはここまでです。

Webページへ

GOKEN